

2021.10



会 誌

[68号]

一般社団法人
保健医療福祉情報システム工業会

目次

官公庁等のご挨拶	厚生労働省 医薬・生活衛生局 総務課 課長補佐	奥野 哲朗	2
役員のご紹介			4
新任理事ご挨拶	一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会 理事	國光 宏昌	6
新任部会長の ご挨拶・抱負	医療システム部会 部会長	桑原 裕哉	7
JAHISひろば (特別寄稿)	一般財団法人医療情報システム開発センター 理事長	山本 隆一	9
	標準化推進部会 国内標準化委員会 委員長	田中 利夫	14
	JAHIS医事コンピュータ部会の2020年度調査研究事業論文について		18
トピックス	製造業者／サービス事業者による医療情報セキュリティ開示書ガイドVer.4.0の紹介	下野 兼揮	23
	2020年度 保健福祉システム部会業務報告会 開催		26
	事業推進部 ホスピタルショウ委員会報告		28
部会から	売上高調査結果報告	武田 芳郎	34
	コロナ禍の医療介護情報連携とICT利活用	光城 元博	38
表彰受賞者紹介			45
運営状況報告	理事会／運営会議状況報告／総務会／委員派遣ならびに協賛・後援		55
会員メール			67
会員紹介	(株)プラスメディ (plus medi corp)／B2NEXT(株)／富士フイルムヘルスケア(株)／ (株)ストローハット／(株)ベストラライフ・プロモーション／Abstract合同会社		74
事務局新人紹介	事業企画推進室 副室長	小林 俊夫	78
編集後記			79

ご挨拶



厚生労働省
医薬・生活衛生局
総務課 課長補佐

おくの てつろう
奥野 哲朗

電子処方箋の意義と展望

1. 電子処方箋の意義

厚生労働省医薬・生活衛生局の奥野と申します。電子処方箋については、2023年1月頃からの運用開始を目指して急ピッチで整理を進めておりますが、出し手と受け手がある仕組みであり、現場にメリットを感じてもらい普及が進まなければ十分な効果を発揮することができません。このため、まずは電子処方箋の意義について述べたいと思います。

まず、単に持ち運ぶ手間を削減するというだけの仕組みではない、と申し上げます。処方箋の複製や偽造の防止が容易になる、薬局の入力の手間が削減される、事前送付やオンライン診療／服薬指導の際の処方箋の伝達が容易になり利便性が高まるといった実務上のメリットはいくつも挙げられますが、それだけではなく、リアルタイムで蓄積される処方・調剤情報を医療機関や薬局で閲覧できる機能も実装予定であり、これにより重複投薬を避ける、飲み合わせを確認する等の、より質の高い医療提供が可能となります。このように、実務上のメリットと医療提供の質の向上の両面を実現することを可能とする仕組みが、電子処方箋になります。

2. 電子処方箋の仕組み

1) 概要

電子処方箋は患者の医療情報そのものであり、セキュリティ面の保障が不可欠です。医療機関と薬局とをつなぐ、全国規模のセキュアなネットワークが必要になりますが、オンライン資格確認等システムの仕組みを活用することにより、安全に電子処方箋をやりとりすることとしています。このため、社会保険診療報酬支払基金と国民健康保険中央会を介する仕組みとします。支払基金等に電子処方箋管理サービスを構築し、クラウド方式で運用します。医療機関が生成した電子処方箋は、資格情報を含んだ電子署名を行い（署名をどの段階で行うかは議論中です）、電子処方箋管理サービスに保管された電子処方箋を薬局が引き出す、という流れになります。このネットワークを活用し、調剤結果やトレーシングレポートなどについても、薬局から電子処方箋管理サービスを通じ

て医療機関が取り込めるような仕組みとすることも考えています。さらに付加的なサービスとして、調剤済み電子処方箋を支払基金等が有償で保管する機能の検討も行っています。

2) 本人確認

電子処方箋は患者に紐付けて管理する必要があるので、被保険者番号をキーとして支払基金等において管理する予定です。ただし、被保険者番号は医療機関や薬局が広く知る情報になりますので、勝手に取り込まれてしまうことを防ぐ必要があります。マイナンバーカードを持つ患者の場合は、オンラインの顔認証端末で本人確認を行ったうえで取り込むことで、課題をクリアできます。マイナンバーカードを持っていない患者の場合は、電子処方箋ごとにアクセスコードを発行し、被保険者番号とアクセスコードで情報を取り出せるようにすることを検討中です。アクセスコードは、マイナンバーカードが（現時点では）使えない事前送付の際や、オンライン診療／服薬指導の際にも活用できると考えています。

3) 処方・調剤情報の共有

電子処方箋と調剤結果をやりとりすることで、支払基金等にリアルタイムの処方・調剤情報が蓄積されます。この情報は大変貴重なもので、レセプトの薬剤情報では1ヶ月以上のタイムラグがありますから、重複投薬や飲み合わせを確認するには不十分だったところ、それを補ってくれます。医師においては飲み合わせやポリファーマシーに留意しながら処方できますし、薬剤師も不完全なお薬手帳や患者の記憶に頼らずに完全な情報を見ながら服薬指導や疑義照会ができるようになります。さらに、支払基金側で重複投薬が確認できた場合に、医療機関や薬局にその旨をお知らせする機能の実装も検討しています。なお、共有する情報を完全なものとするために、紙の処方箋であっても医療機関や薬局が処方・調剤情報を支払基金等に登録できる仕組みとする予定です。

4) スケジュール

スケジュールについては、2023年1月頃の運用開始を目指し、年内にも電子処方箋管理システムの開発に着手予定です。2022年の10月頃にはテストを開始したいので、それに間に合うよう、医療機関や薬局の改修期間を十分に設けたいと考えています。具体的には、年内から説明会を開催し、システムベンダ向けHPやヘルプデスクの設置を行います。年明けには外部インターフェイス仕様書の初版を公表し、意見交換を重ねながら円滑な改修を実現したいと考えています。

3. JAHISへの期待

電子処方箋の効果を最大化するためには、全ての医療機関と薬局が参画し、処方・調剤情報を完全な情報とする必要があります。厚労省としても普及策や周知広報を全力で行いますが、会員の皆様にもメリットをご理解いただき、医療機関や薬局と導入に向けた検討を進めていただきたいと思います。その際、導入コストをできる限り抑えることも重要と思いますので、そのためのシステム設計の方針等について御知見をいただきたいと思います。また、全国共通の仕組みであることから、今後のコスト低減も踏まえ様々な事項の標準化について検討を進めていますが、貴会のこれまでの取り組みにより整理がしやすくなっており、この場をお借りして感謝申し上げます。

一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会 役員のご紹介

JAHISの運営を行う最高機関として、会長、副会長、理事及び監事で構成される理事会があり、年2回定例理事会が開催されます。現在の役員の皆様をご紹介します。

会 長 ^{たきぐち としお}
瀧口 登志夫

キヤノンメディカルシステムズ(株)
代表取締役社長



副 会 長 ^{あおき ちえ}
青木 千恵

(株)NTTデータ
執行役員 公共統括本部
第二公共事業本部長



副 会 長 ^{なか た ひらまさ}
中田 平将

日本電気(株)
執行役員



副 会 長 ^{あさ の まさはる}
浅野 正治

日本アイ・ビー・エム(株)
執行役員 GBS事業本部
公共・通信メディア公益・サービス事業部



副 会 長 ^{はんざわ じゅんいち}
半澤 潤一

(株)日立製作所
公共システム事業部
公共ソリューション推進第一本部 本部長



副 会 長 ^{おおつか たかゆき}
大塚 孝之

P H C(株)
取締役 メディコム事業部 事業部長



副 会 長 ^{もり た よしあき}
森田 嘉昭

富士通Japan(株)
ヘルスケアソリューション開発本部 本部長



理 事 くにみつ ひろまさ
國光 宏昌
(株)EMシステムズ
代表取締役社長



理 事 こばやし かずひろ
小林 一博
コニカミノルタ(株)
執行役ヘルスケア事業本部 副本部長



理 事 た なか けいいち
田中 啓一
日本事務器(株)
代表取締役CEO



理 事 なべ た としゆき
鍋田 敏之
富士フイルム(株)
メディカルシステム開発センター長 兼 メディカルシステム事業部
IT ソリューション部長



監 事 まつもと たく や
松本 卓也
東日本メディコム(株)
取締役 執行役員 システム開発部 部長



監 事 いけ だ たかし
池田 尚
三菱電機(株)
インフォメーションシステム事業推進本部
インフォメーションシステム業務部長



役職：2021年6月8日より 副会長、理事、監事の順序は会社名の50音順による。

ご挨拶

一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会
理事
(株)EMシステムズ

くにみつ ひろまさ
國光 宏昌



JAHIS会員の皆様におかれましては、平素から医療システムの標準化にご尽力賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、理事を拝命いたしました國光宏昌でございます。就任にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

世界中で新型コロナウイルスの感染拡大が進む中、医療の最前線で治療にご尽力されている医療従事者の皆様方には、心から敬意を表するとともに、深く感謝申し上げます。

また、治療の甲斐なくお亡くなりになられた方々、今もなお治療を続けられている方々におかれましては、謹んでお見舞い申し上げます。

日本には、「診断・治療」を意味する「手当て」という言葉があります。この「手当て」という言葉は、文字通り、医師や看護師などの医療従事者が患部に手を当てて、その手からの感触により、患者の状態を診断・治療をするという、まさに医療従事者と患者が向き合っている情景が思い浮かぶ、温かい表現だと思っています。また、その「手当て」の精度は、医療従事者のたゆまぬ努力と経験の積み重ねであり、我が国が先進国の中におきましても、高い医療水準を維持してきた礎になっていることは言うまでもありません。しかしながら、現在は医学・薬学の発展、医療技術の進歩により、手を当てずとも、より詳細かつ客観的なデータをもって、その患部の状態を知り、質の高い診断・治療が可能になってきています。テクノロジーが医療の質の向上に寄与し、患者・医療従事者との物理的な距離を縮め、高い医療サービスの提供を可能にしました。一方で、我が国の少子高齢化は他の先進国には比に値しないスピードで加速の一途をたどり、人生100年時代はもうすぐそこまで来ています。

平均寿命の延びを上回る健康寿命の延伸やそれを手助けするセルフケア・セルフメディケーションの普及、シームレスな地域医療連携や治療から予防へのシフトも重要な課題であり、新型コロナウイルスの感染拡大も相まって、医療の需要はさらに拡大していくこととなるでしょう。

その中で、高い医療水準をさらに高めながら、医療の効率を上げていくことが重大な課題となります。それを解決してくれるのは、先人の「手」に変わる医療技術の進歩、医療のデータの利活用、そしてそれを支える医療システムの構築だと考えております。

私は、20年間、この業界一筋で、医療システムの構築に心血を注いでまいりました。その経験を通じ、未来の医療システム構築に、データの標準化・利活用がいかに重要かということも学ばせていただきました。生意気なようですが、当社の会社方針には「最新のテクノロジーを活用し、国民の健康レベルを向上する」と謳っております。我が国の未来の健康に貢献できる医療システム構築が私の使命であるとの信念のもと、なお一層の努力と挑戦をし続けることをお誓い申し上げ、私のご挨拶とさせていただきます。

今後とも、ご指導、ご鞭撻賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

医療システム部会 ご挨拶

医療システム部会 部会長
(富士通Japan株)

くわはら ひろ や
桑原 裕哉



会員の皆様におかれましては、平素より医療システム部会の活動にご理解並びにご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。今年度より医療システム部会長を務めさせていただくことになりました。この場をお借りして一言ご挨拶を申し上げます。

昨年より、世界的に猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症（以下「COVID-19」という）の流行は収まる気配がありません。我々JAHISの活動も各委員会やWG会議をオンライン化にシフトするなど、創意工夫しながら活動しております。また医療機関におかれましても、感染患者対応等御苦勞をされており、感染回避のためにオンライン診療への対応を図るなど、ICTを活用した診療のスタイルが変化してきております。日本経済団体連合会にて提言「Society 5.0時代のヘルスケアⅡ」がされているように、今後、COVID-19が収束したPostコロナの世界「ニューノーマル」へ移行するにあたり、ヘルスケア分野のDX対応が急務と言われております。

今年閣議決定された経済財政運営と改革の基本方針（骨太方針）2021では、デジタル庁の統括・監理の下、医療・介護データとの連携や迅速な分析の環境の整備を図るとあり、昨年厚生労働省から掲げられたデータヘルス集中改革プランにて3つのACTION（①全国で医療情報を確認できる仕組みの拡大、②電子処方箋の仕組みの構築、③自身の保健医療情報を活用できる仕組みの拡大）をデータヘルス改革に関する工程表に則り、改革を着実に推進するとなっております。

医療システム部会としても、ACTION2（電子処方箋）の対応について、昨年度電子処方せん実装ガイド策定タスクフォースを再開させ、「電子処方せん実装ガイド」を改版しました。今年度は、戦略企画部に設置されているデータヘルス集中改革プラン対応のタスクフォースと連携し、オンライン資格確認の基盤を活用した電子処方箋管理サービスの検討を支援して参ります。また、医療現場でのデータ利活用やAI活用のニーズに応えるには、マシンリーダブルへの対応や標準化が必要不可欠となります。当部会の委員会・WGや会員の皆様と一緒に、電子カルテや検査などの各部門に関連したHL7やDICOMを用いたJAHIS標準類の制定・改定、病棟看護・物流・リハビリ業務の効率化及び標準化（MEDIS-DC看護実践用語標準マスタ、医療材料マスタなど）、データ交換規約の整備・改版を検討して参ります。

先に申し上げたように、ヘルスケア分野のDX対応の進展に伴い、キャリア・ローカル5Gなどのネットワークインフラ面も整備されていくと考えられます。インフラへの病院情報システム関連の多接続化やIoTなどのデバイス連携などが進むことにより、セキュリティやサイバー攻撃対策の重要性が益々

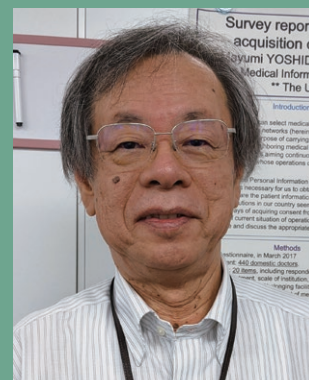
増してきます。セキュリティ関連の各省ガイドラインの改定や新しいアーキテクチャへの対応を受けて、必要に応じてJAHIS標準類の改版を行って参ります。

今後、当部会では電子カルテ委員会、検査システム委員会、部門システム委員会、セキュリティ委員会、相互運用性委員会を中心にJAHISの他部会、委員会、タスクフォースや省庁、関連団体とも連携・協力して健全な運営を行い、JAHISが掲げる2030ビジョン（健康で豊かな国民生活を支える保健医療福祉情報システムの実現を目指して）の実現に向けて取り組むとともに、業界の発展に貢献していきたいと考えております。会員企業の皆様におかれましては、今後とも引き続き更なるご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

私の趣味と仕事

一般財団法人医療情報システム開発センター
理事長

やまもと りゅういち
山本 隆一



1. 医療・医療情報・落語・音楽

医療、医療情報、落語、音楽、この4つはどれも私の趣味であり仕事です。「趣味であり、仕事」というのは妙に聞こえるかも知れませんが、私にはその区別がよくわかりません。ソクラテスは「生きるために食べよ、食べるために生きるな」といいました。また新訳聖書には「人はパンのみにて生きるものにあらず。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる。」（マタイ伝4）と書かれています。JAHISからの原稿のご依頼があって以来、仕事と趣味についてますます悩みが深くなりました。結局食べるための作業は生きるための方便で、生きる喜びが仕事なののでしょうか。そうだとすると、私の仕事は医療、医療情報、落語、音楽（ベース奏者）ということになります。医療情報の話はJAHIS関係者の皆様は聞き飽きてられることでしょうか、今回は落語と音楽という仕事について書いてみます。

2. 「題名のない番組」と落語

まず、私の仕事の1つ「落語」についてお話しします。「落語」の話の前に、唐突ですが昔のラジオ番組の話にお付き合いください。「題名のない番組」は1964年から1969年まで毎週水曜日の夜11時から30分、ラジオ大阪で放送された番組です。パーソナリティの小松左京と三代目桂米朝がリスナからの投稿ハガキをネタに掛け合い漫才のようなトークを繰り広げ、アナウンサーの菊池美智子が絶妙の間の手を入れるだけの番組でした。ファンの間では『題なし』と呼ばれています。リスナからの投稿はパロディが多く、パロディといえば元ネタを知らなければ面白さもわかりません。『題なし』で紹介されたパロディには童謡や当時の流行歌のパロディもありましたが、元ネタが近松門左衛門の浄瑠璃、平家物語、伊勢物語などもあり、番組中に初めて見ると思われる投稿に左京も米朝も「これは近松の心中天網島の三段目のはじめのどこやね。」「そうそう、ここから治平衛の出につながるところでんな。」みたいな話を当たり前にしていました。小学校5年生の時に自分で作ったゲルマニウムラジオで、この『題なし』を夢中で聞いていました。もちろん小中学生が近松の浄瑠璃や伊勢物語のオリジナルを知っているはずもないのですが、64年といえば小松が「日本アパッチ族」を発表した年で、その後、未知のウイルスによるパンデミックを描いた「復活の日」や、ちょっとエッチなシーンもある「エスパイ」などを連発し、夢中になって読んでいたこともあり、毎週楽しみに聞いていました。それまで落語はあまり知らなかったのですが、この『題なし』で、小松に引けを取らない教養をにじませていた米朝に興味を覚え、『題なし』に続く時間帯に時々放送があった落語特選も熱心に聞いていました。数年後にはカ

セットレコーダ付きのAM/FMラジオでこの落語特選を録音し、毎日同じ落語を寝る前に聞いていました。三代目桂米朝の「地獄八景亡者戯」や二代目「桂枝雀（当時は十代目小米）」の寝床、五代目笑福亭松鶴の「らくだ」などは、一語一句覚えて演じることができるほど聞いていました。まったく進歩のない私は今でも寝る前はiPod touchで落語を聞いて寝ています。落語のCDは数百枚ほど持っています。

3. 音楽

音楽も私の仕事（落語と同じく収入なし）の一つですが、最初のご多分に漏れずラジオやテレビから流れてくる流行歌でしたが、その後は小学5年生でビートルズを聴いて衝撃を受け、聴くことができる音楽は何でも貪るように聞いていました。聴くといっても小中学生の間はラジオで聞くか、あるいは中学校の音楽室で聴くかしか方法がなかったのですが、中学校では音楽の先生をだまして、校内放送でビーズのレコードをかけた悪行覚えもあります。高校に入ると安物ですが、簡単なオートチェンジャーのついたステレオレコードプレーヤを手に入れ、バックロードホーンのスピーカを自作して聴いていました。ちなみにこの自作スピーカは高さが1mを超え、片方で30Kg超ある、檜の単板で複雑なホーンを作ったもので、ものすごく迫力のある音が出ました。自宅が工場で、その片隅に二間の簡易住宅があり、そこを1人で占拠していましたので、遠慮なく鳴らすことができました。聴いていた音楽は、節操も何もあったものではなく、ポップ、ロック、ジャズ、クラシック、昭和歌謡と手当たり次第といったところで、これは今でも同じです。「世の中には2種類の音楽しかない。良い音楽と悪い音楽だ。」というフレーズはジャズの巨人、デューク・エリントンの言葉ですが、まったく同感です。

4. ギター

医療情報と落語と音楽を聴くことに加えてもう一つの仕事（収入なし）はベーシストですが、普通ベーシストは最初からベーシストではありません。理由は簡単で、ベース1本で音楽を表現することは難しいです。ポール・チェンバースはベース1本でも十分聞かせますが、それでもリーダとして録音した多くの作品はバンド演奏です。私も最初はギターでした。小学5年生の時に誰かが捨てていたギターを拾ってきたのが最初です。ほとんどベニヤ板張りのおもちゃのギターで、中学校に入ると、とりあえず、この拾ったギターに新しい弦を張り、とりあえず基本的な和音の勉強や分散和音奏法を囓りました。さすがにおもちゃではまともな音が出ないので、高校入学の時にヤマハのFG10という最廉価版のフォークギターを買ってもらい、10年以上愛用していました。ビートルズや当時大流行していたアメリカのフォークソングのコピーをして遊んでいました。この頃友人と2人でバンドを作り、5インチオープンリールがあったので、モノラルでしたが多重録音をして楽しんでいました。あいかわらず音楽ジャンルにはまったく節操がなく、ジャズ、ロックからカントリーやブルーグラス、クラシックまで、手当たり次第という状態です。親戚の結婚式の余興で、ドック・ワトソンの「Black Mountain Lag」というブルーグラスのギターソロを演奏した覚えがあります。医師になってから多少収入も得るようになったので、Ovationの初期モデルを買いましたが、ものすごく弾きやすくて、衝撃を受けたのを覚えています。その後遠慮なく音を出せた工場の一角のぼろ屋から、結婚をして小さなマンション暮らしに変わったのですが、小さなマンションでフルサイズのOvationを弾くと近隣に響き渡ります。



写真1

せっかく買ったのに、通常の奏法では弾けなくなってしまいました。どんな楽器でもそうですが、必要以上に手加減して弾くといい音もできませんし、下手になります。やむなく練習用にヤマハのサイレントギターを買いましたが、Ovationと比べてしまい鬱々としていました。次にまともなギターを買ったのは、35年後（音楽以外の仕事が忙しかったのでしょね）で、還暦記念で購入したFenderのTelecasterの60周年記念モデル（Telebration modelと呼ばれています。なんとTelecasterは私と同年！）のrose woodモデルです（写真1、2）。

Telecasterのrose woodモデルといえばFender社がジョージ・ハリスンの為に特別に作ってプレゼントし、映画「Let It Be」の中で弾いていた指板までrose woodのものが有名ですが、Telebrationの



写真2

rose woodモデルは指板がmapleです。ただピックアップが良くて、とても良い音がします。次に入手したのはTaylorのT5-C（写真3）で、Taylorはアコースティックギターの有名なメーカですが、T5シリーズはセミアコでピックアップが3個内蔵された半分エレクトロニックギターです。ただアコースティックギターとしても良く出来ていて、

電気を通さなくても良い音がします。音量が小さいだけで、これは気に入りました。その他に、いただきものですが、Schecterのフルアコースティックもありますが、残念ながら東日本大震災の時にギタースタンドから倒れてしまい、ピックアップの切り替えスイッチが壊れたこともあって、半永久的

に錆びないステンレス弦を張って練習専用になっています。好きなギタリストはたくさんいますが、ドック・ワトソン、ライ・クーダ、内田勘太郎、ジョン・レンボーン、マーク・ノップラー、ジョン・マクラフリン、ジム・ホール、ジョー・パスは定期的に聴いています。



写真3

5. ベース

ギター1本やピアノ1台というのは歌があってもなくても音楽になるのですが、ギター2本など複数の楽器になると突然欲しくなるのがベースとドラムスです。いわゆるリズムセクションですね。リズムセクションが入ると、一気に音楽が締まります。ドラムスは通常はリズム専任ですが、ベースは和音やムードの流れも支配できます。できることはできるのですが、これが難しくてなかなかかっこよくはできません。決まると気持ちいいですね。さて高校時代に2人でバンドを組んだと書きましたが、やはりベースが欲しくなって、それこそ安物のエレキベースを弾き始めたのが始まりで、その後はどんな音楽を聞いても低音の運びが気になるようになりました。ウッドベースが主体のジャズベースも好きでむさぼるように聞いていたものです。スコット・ラファロのベースとビル・エヴァンスのピアノの組み合わせはこの世のものとは思えませんし、ロン・カーターやジョニ・ミッチェルのアルバムに参加したジャコ・パストリアスも嫌いではなかったです。へたくそバンドではベースはやはり添え物で、楽器もあまりこだわりがなかったのですが、へたくそバンドではみんなが目立つリードギターやキーボード、ダイナミックな



写真4

ドラムスをやりたがって、ベースは人気がありません。私は、JAHISの皆様よくご存じのように、何よりも調和を重んじる性格でしたので、必然的にベースを担当することが多く、練習することも多くなり、まともな楽器が欲しくなり、タカミネのチェロタイプのベース（写真4）、Fender JapanのJazz base 1978年モデル、TuneのWB-5というフレットレスの5弦（写真5、木村先生のバンドで練習中）、Earnie Ball music manのStingray 5（ほんとうは友人からの預かりものですが愛用？しています）などを使っています。ウッドベースの善し悪しはわかりませんが、エレキベースは余韻がすっきりしっかり出る楽器が好きです。Stingray 5は「三井の晩鐘」として知られている園城寺の鐘のような



写真5

なんとも言えない余韻が出ます。Tune WB-5はWoodyなホローボディで軽いにもかかわらず良い音がします。ちなみにエレキベースは一般に重くて肩が凝ります。デビュー前のポール・マッカートニーがハンブルグで急遽ベースを弾かなければならなかった時に、普通のベースギターが重すぎたのでHöfnerのヴァイオリンベースを買い求めたのは有名なエピソードですね。WB-5も肩が凝りません。さて、前記以外に好きなベーシストですが、ポール・マッカートニーは外

せませんね。細野晴臣、スティング、グレッグ・レイク、ジョージ・ポーターJr (The Meters)、ロジャー・ウォータース、ダグ・マッコームズ (The Tortoise)、マイケル・リーグ (Snarky puppy) はよく聴いています。

6. 老後

3年ほど前に、PHRの実証事業で訪問していた佐賀県多久市にあるお気に入りの喫茶店を出たところで転倒し、右手の中指に名誉の負傷を負いました。裂傷と中指の屈指腱断裂が起こったのですが、その時は腱断裂に気付かず裂傷の治療だけ我流で行い、その後すぐ海外出張もあり、専門医に診てもらう機会がなく、気がつくと中指のDIP関節が拘縮してしまいました。ギターやベースにとって右手中指の拘縮は大変影響が大きく、ピックを使った演奏は問題ないのですが、フィンガリングが著しく不自由になっています。もっともプロの奏者には指が1〜2本なくても障害があっても名演奏を残しているジャンゴ・ラインハルトやジェリー・ガルシアもいますので、練習すればなんとかなると思うのですが、使えていた時の身体の記憶は強烈で、つつい、苛立ってしまいます。で、演奏は苛立たない程度に抑え、最近では写真3のようにDesktop Music (DTM) に注力しています。俗に言う「打ち込み」ですね。写真のDTMソフトはCUbaseです。ちなみに抱えているギターは先ほど紹介したTaylor T5-cです。Desktop Musicもけっこう前から取り組んでいたのですが、やっぱり「打ち込み」と実楽器の演奏ではかなり感じが違い、つまみ食いと挫折を繰り返してきました。しかし実演奏が不自由になったので、こんどばかりは真剣に取り組んで老後の仕事（やっぱり収入なし）にしようと思っています。長々と私の仕事の無駄話にお付き合いいただきありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

7. 校正時追記

今日、RolandのBOSS Eurus GS-1が届きました。知る人ぞ知る（発売直後なので、ほとんど知る人のない）ギターシンセサイザーで、面白い音が出せます。儲けがなくて経費ばかりかかる仕事です。

第25回日本医療情報学会春季学術大会 HELICSチュートリアル講演報告 ～「JAHISにおける標準化への取り組み」の紹介～

標準化推進部会 国内標準化委員会 委員長
(キヤノンメディカルシステムズ株)

た な か と し お
田中 利夫



第25回日本医療情報学会春季学術大会が2021年6月10日～12日の期間、米子コンベンションセンターの会場とオンラインでのハイブリッドで開催されました。6月10日に医療情報標準化推進協議会（HELICS協議会）主催のチュートリアルがあり、HELICS協議会に参加する11団体の中から、(1) JAHIS、(2) JIRA、(3) IHE-J、(4) GS1 ジャパン、(5) MEDIS-DC、(6) JSRTの6団体が、標準化活動への取り組み状況等について講演を行いました。当日のプログラムは以下の通りです。

チュートリアル2

HELICSに求められる標準化活動を参加団体の立場から考える

開催日時	2021年6月10日（木） 13時00分～15時00分
開催会場	第2会場（米子コンベンションセンター 会議棟2階・国際会議室）※ ※ハイブリッド開催
オーガナイザー	安藤 裕
主 催	医療情報標準化推進協議会
テーマ	HELICSに求められる標準化活動を参加団体の立場から考える
座 長	安藤 裕（HELICS協議会） 江本 豊（HELICS協議会）
演 者	第1部 参加団体の標準規格に対する取り組み状況と今後の展望 (1) JAHISの取り組み（保健医療福祉情報システム工業会 田中 利夫） (2) JIRAの取り組み（日本画像医療システム工業会 鈴木 真人） (3) IHE-Jの取り組み（日本IHE協会 安藤 裕） (4) GS1 ジャパンの取り組み （改正薬機法にみる医薬品・医療機器等の製品識別と情報連携） （GS1ヘルスケアジャパン 落合 慈之） (5) MEDIS-DCの取り組み（医療情報システム開発センター 山上 浩志） (6) JSRTの取り組み（JJ1017指針 -Ver3.4改定報告-） （日本放射線技術学会 山本 剛） 第2部 データヘルス改革における厚生労働省の取組みについて （厚生労働省 医政局 医療情報技術推進室 前田 彰久室長）

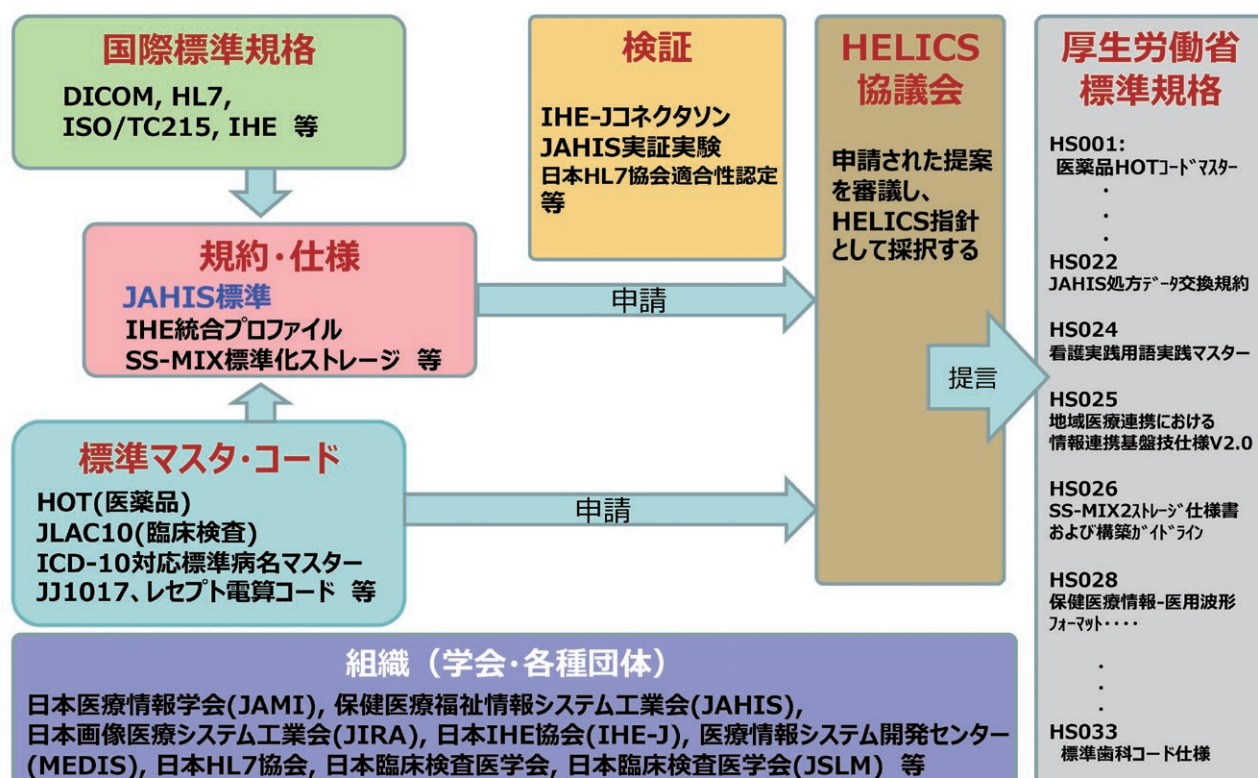
筆者は6団体のトップバッターとして、JAHIS会議室からJAHISロゴのバックパネルを背景にリモートで講演を行いました。リモートでの講演に当たっては、数日前にリハーサルとして接続確認等を行ってから臨みましたが、JAHISで使い慣れているWebex使用ということもあり、本番でも戸惑うことはありませんでした。長引くコロナ禍で、運営側も演者側もウェビナーの経験を積んできたこともあり、当日も大きなトラブル等は発生しなかった模様です。

以下、筆者が講演した内容について、概略をご紹介します。

はじめに、「厚生労働省標準規格ができるまで」として、JAHIS標準を含む各種標準類や各標準化団体等との関連等を示しました。



厚生労働省標準規格ができるまで

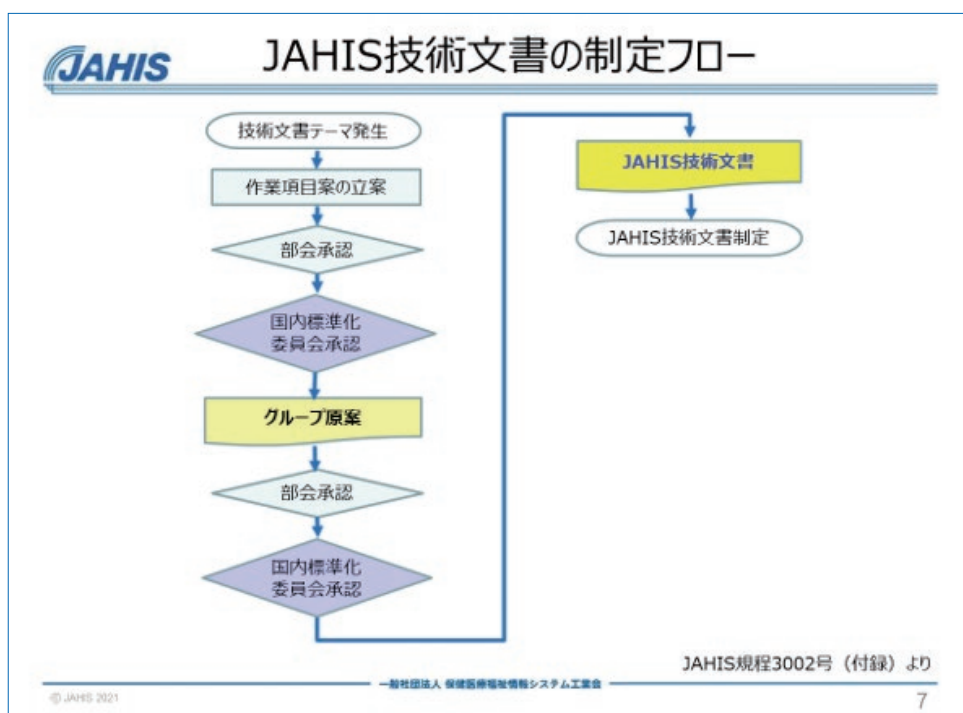
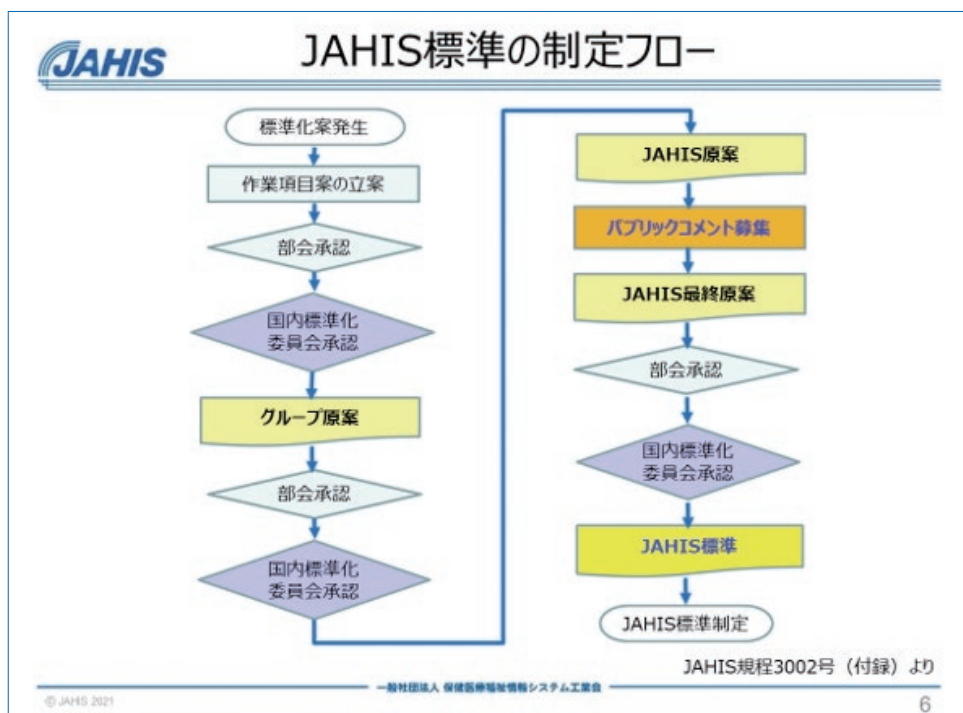


© JAHIS 2021

一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会

1

続いて、JAHIS標準類には「JAHIS標準」と「JAHIS技術文書」があり、「JAHIS標準」については、HELICS協議会へ指針として登録提案することができること、「JAHIS標準」と「JAHIS技術文書」には、制定までのプロセスに違いがあることを説明しました。



次に、これまでに制定されたJAHIS標準類の一覧を示し、最新のものはJAHISのホームページで公開していることを紹介しました。また、「JAHIS標準類のカテゴリ分類表」やJAHISで作成した「医療情報システムの標準化について」のパンフレット、医療情報に関する主な標準類の関係を表した「標準類オーバービューチャート」について、JAHISホームページからの参照方法も含めて紹介しました。



JAHIS標準 → HELICS指針

HELICS指針になったもの

#	題名	最新 Ver.
HS012	JAHIS臨床検査データ交換規約	Ver. 4.0C
HS016	JAHIS放射線データ交換規約	Ver. 3.1C
HS022	JAHIS処方データ交換規約	Ver. 3.0C

これから、HELICS指針に申請が見込まれるもの

題名	最新 Ver.
JAHIS「製造業者/サービス事業者による医療情報セキュリティ開示書」ガイド	Ver. 4.0

JAHISとJIRAが共同で作成した「製造業者による医療情報セキュリティ開示書」ガイドが指針化提案申請されていましたが、サービス事業者が提供する医療情報サービスを対象とした医療情報セキュリティ開示書を追加し、再申請される見込みです。

本編の最後では、これまでに3つの「JAHIS標準」が「HELICS指針」となっていること、JIRAと共同で作成した「製造業者／サービス事業者による医療情報セキュリティ開示書」ガイドが、これからHELICS指針に申請見込みであることを紹介しました。

講演の最後に、JAHISの四半世紀の歩みを紹介した動画を下記YouTubeで公開していることに触れ、JAHISの「宣伝」を行いました。

今回、活動経験の浅い筆者がJAHISを代表して「JAHISにおける標準化への取り組み」について対外的に紹介させていただきましたが、これまでの取り組みにおける関係各位のご尽力に深く感謝申し上げます。JAHIS標準類の制定や普及推進活動等においては、各部門・委員会の連携や協力が不可欠です。今後とも、引き続きよろしくお願い申し上げます。

なお、本チュートリアルでの6団体の講演資料は、下記URLより参照可能です（2021年8月時点）。
http://helics.umin.ac.jp/event_20210610pre.html

JAHIS医事コンピュータ部会の 2020年度調査研究事業論文について

一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会（以下「JAHIS」）医事コンピュータ部会では、1994年4月のJAHIS設立後、翌年の1995年度から今年度の2021年度を含め、足掛け27年間の長きに渡り、一般財団法人医療保険業務研究協会から調査研究事業の委託を請け、その成果として調査研究論文を作成し、厚生労働省や社会保険診療報酬支払基金等（以下「関係機関」）に意見具申を行ってきた。

本調査研究事業の目的は、今後の医療制度改革や医療分野におけるICT化の推進等に寄与すると共に、医療保険制度の更なる発展を期するものである。医事コンピュータ部会は、レセコンに搭載すべき算定方法（ロジック）や請求に関するルールを遵守する立場として持ちうる独自の視点から、レセプトの電子的な請求やチェックの発展に資するような実践的な提言を通して、デジタル化の時代の新しい診療報酬改定の内容の在り方を示してきた。

以下に、27年間に渡り取り組んできた調査研究のテーマを紹介する。

年度	調査研究テーマ
1995	レセプト電算処理システムの標準マスターの在り方に関する調査研究結果報告書
1996	医療保険制度と医療情報システム（診療報酬請求の標準マスターと診療行為項目の関係）
1997	医療保険制度と医療情報システム（レセプト電算処理システムから統合医療情報システムへのアプローチ）
1998	医療保険制度と医療情報システム（診療報酬の包括化・定額制移行に対する診療行為データの補完と医療情報としての有効活用）
	統合されたレセプト様式の高度活用に関する研究
1999	レセプト電算処理システムに基づく医療情報データベース構築方法について
2000	レセプト電算処理システムに基づく医療情報データベース構築方法について（Ⅱ） （PC実験モデルによる仮想レセプト医療情報データベースの試行的開発）
	米国のHIPAAに学ぶ （米国のHIPAAと我が国のレセプト電算処理システムとの比較）
2001	レセプト電算処理システムに基づく医療情報データベース構築方法について（Ⅲ） （仮想レセプトを実用化するための基礎固め）
	現状の複雑化した公費負担医療制度及び自治体公費に関する調査と電算化処理を円滑化するための提案Ⅰ

年度	調査研究テーマ
2002	現状の複雑化した公費負担医療制度及び自治体公費に関する調査と電算化処理を円滑化するための提案Ⅱ
2003	レセプト電算処理システムの本格普及に備えての基盤整備と普及促進のあり方について
2004	レセプト電算処理システムの本格普及に備えての基盤整備と普及促進のあり方について(Ⅱ)
2005	歯科レセプト電算処理システムの本格普及に備えての具体的推進策について
2006	レセプトオンライン請求の推進に向けて
2007	レセプトオンライン請求の推進に向けて(Ⅱ)
2008	アジア・オセアニア地域における医療保険制度と審査支払の効率化について
2009	レセプトデータ等の利活用のあり方に関する研究
2010	—
2011	レセプトデータ等の利活用のあり方に関する研究(Ⅱ)
2012	電子レセプトデータ利活用による防災対策に関する研究
2013	電子レセプトデータ利活用による防災対策に関する研究(Ⅱ)
2014	—
2015	診療報酬改定に伴う保険医療機関等のレセプトコンピュータ改修作業等の現状とこれに関わる改善への取組みについて
2016	英国における診療報酬制度および診療報酬改定に関する研究
2017	「診療報酬請求書等の記載要領」の電子化に関する研究(Ⅰ)
2018	「診療報酬請求書等の記載要領」の電子化に関する研究(Ⅱ)
2019	診療報酬制度(告示・通知等)に関わる制度面・システム面における問題点とその対策について～「レセプト全体の9割をコンピュータチェックで完結」に向けて～ 【調査研究中】
2020	令和2年4月診療報酬改定の実態調査による施策実施状況と評価およびその考察
2021	医療費請求業務システムにおける紙の廃止による請求業務効率化に向けた現状と評価およびその考察

一昨年度の会誌65号(創立25周年記念号)では、2018年度から2019年度の調査研究について紹介した。本誌では、その後の2020年度の調査研究の概要と、現在進行中の2021年度の調査研究の方向性についてご紹介することとし、これらの活動が如何に行政動向に沿ったものであり、また、それを先取りした活動であるかをご理解いただければ幸いである。

なお、2020年度以前の調査研究論文については、JAHISホームページの『会員ログイン(ID/PASSページ)⇒アーカイブ⇒JAHISアーカイブ⇒部会情報』に全文を掲載しているので是非ご覧いただきたい。

1. 2020年度調査研究事業

1) 研究テーマ

令和2年4月診療報酬改定の実態調査による施策実施状況と評価およびその考察

2) 本調査研究の目的・背景

令和2年度診療報酬改定（以下「令和2年度改定」）を調査研究テーマとした意義は下記の2点。

- (1) 2017年7月に厚生労働省及び社会保険診療報酬支払基金（以下「支払基金」）が公表した「支払基金業務効率化・高度化計画」で示す「2022年度（令和4年度）までにレセプト全体の9割程度についてコンピュータチェックでの完結を目指す」施策の中間評価を行うことができる最後の診療報酬改定であること。
- (2) 診療報酬改定におけるシステム改修の時期とCOVID-19（以下「新型コロナウイルス感染症」）の拡大の時期が重なったこと。

2020年度調査研究における目的は、次回の診療報酬改定（令和4年度改定）から実現可能な実践的な提言を行うことであり、この提言を通して、

- ・『診療報酬改定に関わるすべての人の作業の効率化・作業負担の軽減』
- ・『レセプト電子請求のさらなる効率化及びレセプトチェックの量的・質的向上』

とした目標に近づけることとした。

3) 本調査研究の要点

第1章では、令和2年度改定の総評を行った。令和2年度改定の特徴は、記載要領通知に記載されているレセプト摘要欄に記載すべき事項を所定のコメントコードを用いて記載するもの（以下「選択式コメント」）が大幅に拡充し、新たなルールの選択式コメントが追加され、その影響が大きく出た診療報酬改定であった。

コロナ禍の診療報酬改定では、関係者は感染の危険にさらされながら改定に関わる作業を行っただけでなく、緊急事態宣言が発令された令和2年4月から5月にかけては、従来の作業態勢をとることができず、想定外の制約下での作業となった。また、新型コロナウイルス感染拡大は、算定ルールや請求方法の追加・変更にも及ぶこととなり、改修作業を長期化させる要因となった。

過去の調査研究で提言した内容が、令和2年度改定でどの程度対応いただけたのかを評価し、令和2年度改定の特徴を鑑みた結果、本調査研究の具体的論点の一つを「選択式コメント」とした。

第2章では、「選択式コメント」に関する論点として下記の4点を挙げ、それぞれに対して「現状認識と課題」を整理し、具体的な提言を行った。

- ・論点①：画像診断における撮影部位の選択式コメントコードについて
- ・論点②：「特定薬剤治療管理料1」のコメント取扱いについて
- ・論点③：レセコンシステム以外の部門システムから入力するコメントの取扱いについて（「脳血管疾患リハビリテーション料」を例に考える）
- ・論点④：類似するコメントの整理について（「前回算定日」と「前回実施日」）

第3章では、「コロナ禍における診療報酬改定」について論じた。コロナ禍での改定対応の経験及びそこから得られた知見を正確に記録することにより、これからの新たな生活様式に対応した診療報酬

改定の作業の仕方や働き方、さらには将来の診療報酬改定作業のスキームを模索することとした。

具体的には、下記(1)(2)の観点で整理を行い、(3)として様々な提言を行った。

- (1) 診療報酬関連の特例的、臨時的な対応
- (2) コロナ禍での感染リスクを伴う診療報酬改定作業
- (3) 次回の診療報酬改定、将来の診療報酬改定に活かすべきこと

第4章では、「診療報酬改定を経て考える今後の展望、議論の方向性」について論じた。具体的には、次回以降の調査研究の中で診療報酬改定に関わるすべての関係者が利益を享受できるような考察を行えるよう、下記3点について論点整理を行うこととした。

- (1) レセプト、EFファイルのデータの有効活用
- (2) 今後のレセプト等の在り方・活かし方
- (3) これからの診療報酬改定における改修作業

2. 2021年度調査研究事業

1) 研究テーマ

医療費請求業務システムにおける紙の廃止による請求業務効率化に向けた現状と評価およびその考察

2) 本調査研究の方向性

行政サービスのDX化が促進される中、2020年3月31日に、支払基金より「審査事務集約化計画工程表」が示され、審査事務の効率化に向け取り組みがなされている。関係各機関において、その実現に向け多くの対応・協力がなされてきたものとする。JAHISにおいても、本調査研究事業および関係団体としての施策提言を行ってきた。

請求業務（審査業務）の効率化をさらに進めるための検討すべき領域として、現状の紙による請求/審査業務を必要としている実態を調査研究することは、紙の運用を無くしDX化を完遂する上で必須なテーマと考える。支払基金に於ける令和2年3月時点での紙による請求（原審査・再審査）件数割合は1.7%であるが、対して業務量は約15%と見込まれる状況※1にあることから、ラストワンマイルとして多くの課題を抱えているものとする。

2021年3月29日に取りまとめられた審査支払機能の在り方に関する検討会 報告書※2の中でも、オンライン請求の促進として、2021年10月からオンライン請求医療機関等への紙媒体による返戻を廃止し、オンラインによる返戻のみとすることとされ、2022年度中には再請求もオンラインのみとすることとされた。2021年8月16日付で通知も発出されている。

また、支払基金では「審査事務集約化計画工程表」への対応として、2021年9月からオンライン請求における受付・事務点検ASP機能拡充やコンピュータチェックの精緻化及び職員・審査委員へのフィードバックも行われることになっている。

主として請求事務システム（レセコン）を提供する立場として、請求事務現場（返戻再請求のオンライン化に加え、地方単独医療費助成制度、出産育児一時金の直接支払制度、自賠責、公害等のオンライン請求の対象となっていない請求事務を含む）の視点に立ち、多様な現状課題の整理を行える

JAHISからの本調査研究は、紙による請求業務の廃止（効率化）に向けて、大きくその価値があるもの
と考える。後年度における効率化・高度化計画の目標達成に向け、JAHISの視点から多角的に対応策
を検討の上、これを厚生労働省はじめ関係機関に対して提言していく。

- ※1 「社会保険診療報酬支払基金の審査事務 集約化に向けた取組と今後の課題（令和2年10月9日 社
会保険診療報酬支払基金）」より引用加筆
- ※2 支払基金と国保中央会等の審査 支払機能の整合的かつ効率的な在り方について、具体的な方針・
対象業務・工程等を検討するために開催。審査支払機能の効率化や質の向上の観点から、「審査
支払機関改革における今後の取組」や「規制 改革実施計画」に基づき、その他の重要事項の1つ
として、「オンライン請求の促進」についても議論が行われた。

製造業者／サービス事業者による 医療情報セキュリティ開示書ガイド Ver.4.0の紹介

医療システム部会 セキュリティ委員会
JAHIS-JIRA合同開示説明書WG リーダ
(株)グッドマン

しものかねき
下野 兼揮



1. はじめに

JAHIS標準「製造業者/サービス事業者による医療情報セキュリティ開示書」ガイドVer.4.0は、厚生労働省の「医療情報の安全管理に関するガイドライン（以下、安全管理ガイドラインと記します。）第5.1版」に対応し、Ver.3.0までの「製造業者による医療情報セキュリティ開示書」に「サービス事業者による医療情報セキュリティ開示書」を加えたものです。

本稿では、「製造業者/サービス事業者による医療情報セキュリティ開示書」ガイドVer.4.0の概要について紹介させていただきます。

2. 「製造業者/サービス事業者による医療情報セキュリティ開示書」ガイドとは

医療機関等において、医療情報システムの導入及びそれに伴う外部保存を行う場合の取扱いに関し、個人情報保護法やe文書法への適切な対応の総合的な指針として、厚生労働省から「安全管理ガイドライン」が発行されています。

しかし、本開示書が公開される前は、各製造業者の医療情報システムのセキュリティ機能に関する説明には標準的記載方法の定めがなく、その記載レベルもさまざまである状況でした。このことは、医療機関等内のトータルシステムの構築を担う担当組織においては、各システム間の整合性を取る際の支障であり、各医療機関等で独自に策定した書式にその都度、製造業者が対応することもまた、業務の効率化を妨げることにもなります。

そこで、一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会（JAHIS）医療システム部会セキュリティ委員会及び一般社団法人日本画像医療システム工業会 JIRA 医用画像システム部会セキュリティ委員会は、製造業者による製品のセキュリティに関する説明を、日本での標準書式とすることを想定して「製造業者による医療情報セキュリティ開示書（略称: MDS）」の書式を作成しました。今回のVer.4.0では、増加しつつある医療情報のクラウドサービスにも対応し「サービス事業者による医療情報セキュリティ開示書（略称: SDS）」を追加するため、JAHIS/JIRAに加えて一般社団法人電子情報技術産業協会 JEITA、一般社団法人ASP・SaaS・AI・IoTクラウド産業協会 ASPICにも参画いただきました。

これらの標準的な書式を用いることにより、製造業者/サービス事業者と医療機関等の双方にとって効率的なシステム構築が進むことを目的としています。

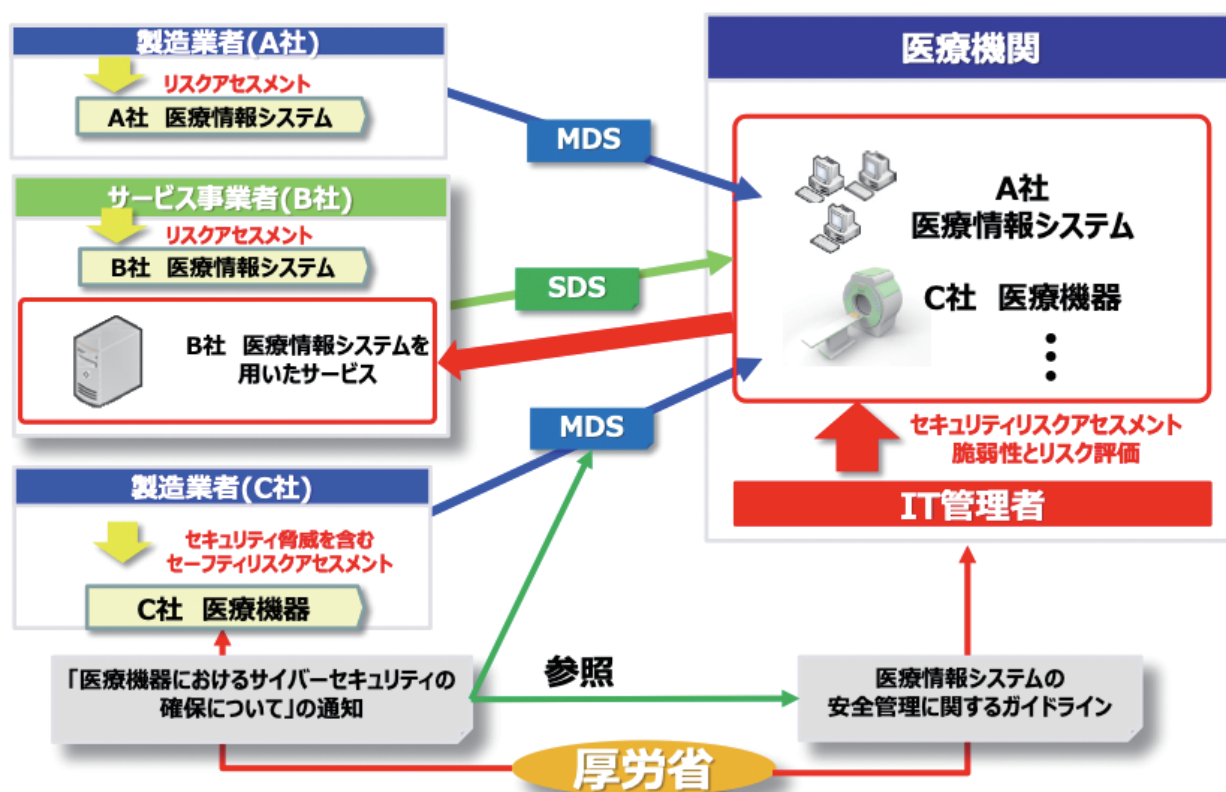
本書の意図は、医療機関等が医療情報システム/サービスによって保存、伝送される医療情報に関するリスクアセスメントを行うとき、それを支援できる重要な情報を提供することにあります。製造業者/サービス事業者は、標準化された書式を使用することにより、自らが製造する医療情報システムのセキュリティ関連機能に関して、医療機関等から情報提供を要求されたとき迅速に答えることができます。

一方、医療機関等は、標準化された書式の記載により、製造業者/サービス事業者によって提供されるセキュリティ関連情報のレビューを行い易くなります。

3. MDS/SDSの流れ

MDS/SDSは医療機関等が新規に「医療情報システム」、「医療機器」、「医療情報サービス」を導入する際、あるいは運用管理規定の見直しを行う際に、それらを提供する製造業者/サービス事業者から入手することを想定しています。

医療機関等では、医療情報を安全に適切に取り扱うために運用管理規定の作成が義務付けられており、MDS/SDSは運用管理規定作成のための適切な情報源となると考えています。



MDS/SDSの流れ

4. MDS/SDSの位置づけ

MDS/SDSは業界団体であるJAHIS/JIRAが作成したのですが、下記のように参照されており、日本の医療情報セキュリティにおいて、標準的な書式になりつつあると考えています。

1) 厚生労働省「安全管理ガイドライン 第5.1版」

6.2章で「情報システムで扱われている情報のリストアップやリスク分析及び対策において、その装置のベンダから技術的対策等の情報を収集することが重要である。その際、JAHIS標準及び日本画像医療システム工業会規格となっている『『製造業者による医療情報セキュリティ開示書』ガイド』で示されている「製造業者による医療情報セキュリティ開示書チェックリスト」が参考になる。」と記載されています。

2) JAHIS『厚生労働省の平成27年4月28日付通知「医療機器におけるサイバーセキュリティの確保について」に対する対応について』

厚生労働省「医療機器におけるサイバーセキュリティの確保について」に記載の「医療機関に対し、必要な情報提供」のツールとしてMDSの活用を推奨しています。

3) 厚生労働省「医療機器のサイバーセキュリティの確保に関するガイダンス」

参考資料として記載されています。

4) 医機連「医療機器のサイバーセキュリティに関する質疑応答集

「安全管理ガイドライン」に沿った情報提供に使用できる、と記載されています。

また、今後、HELICS「医療情報標準化指針」への申請も予定しています。MDS/SDSが「医療情報標準化指針」として採択されれば、医療機関等から製造業者/サービス事業者に対してMDS/SDSの提出要求が増加し、より普及が推進されと考えています。

5. MDS/SDSの普及活動

セキュリティ委員会「JAHIS-JIRA合同開示説明書WG」では、Ver.1発行後から、「MDS書き方セミナー」や「セキュリティ関連セミナー」等において、MDS/SDSの内容、その記述に関して説明してきました。そして、それらのセミナー等で寄せられた質問をベースに記述の助けとなるように「Q&A集」の作成、更新を随時進めています。

また、MDS/SDSの受け手である医療機関等側に認知していただくため、医療情報研究会で発表を行い、医療機関等向けの「医療機関等向けユーザズガイド」も公開いたしました。

今回のVer.4では、医療情報システムサービスに対応したSDSをMDSに合わせて公開いたしました、それを受け2022年1月に「SDS書き方セミナー」の開催を予定しています。

6. 最後に

MDSは安全管理ガイドラインと共に版を重ねて少しずつ認知されて普及しつつありますが、まだ十分とは言えないかと考えています。

MDS/SDSの作成は自社の製品/サービスのセキュリティ機能の確認になります。また、MDS/SDSを医療機関等に提出し活用していただくことにより、日本の医療現場での医療情報セキュリティが向上することを期待していますので、JAHIS会員企業の皆様にMDS/SDSの作成、医療機関等へ積極的に提出を進めていただきたいと考えています。

2020年度 保健福祉システム部会 業務報告会 開催

2021年5月28日（金）に、123名の参加をいただき、2020年度の保健福祉システム部会業務報告会をWeb開催しました。当初は3月11日の年度内開催を予定しておりましたが、1都3県でのCOVID-19緊急事態宣言再延長に伴い延期し、再々の延期防止を鑑み、事前録画方式によるオンライン配信に変更しての実施となりました。

第1部では、岩田部会長による部会概況報告に続いて、鹿妻・金本TFリーダからPHR検討TFの報告、および鹿妻健康支援システム委員長・田中地域医療システム委員長・金本福祉システム委員長から各委員会のトピックを交えた活動報告を行いました。

第2部では、特別講演として、内閣官房 情報通信技術（IT）総合戦略室の山田参事官より、「健康・医療・福祉分野の行政動向とデジタル化の今後について」と題してご講演を頂き、その後、部会長・3委員長を交えたディスカッションを行いました。この中では、健康・医療・介護分野におけるDXや事例紹介をいただき、デジタル庁の発足（9月1日）を控えた時期に会員にとって関心の高いお話をいただくことができました。

■2020年度 保健福祉システム部会業務報告会 プログラム

◆ 日時：2021年5月28日（金）14:00～17:30

◆ 場所：オンラインによるWEB開催（WebexEventsにて実施）

第1部 業務報告 司会 運営幹事 松原 修

① 部会活動報告	部会長	岩田 淳也
② PHRを巡る最近の動き	PHR検討TF リーダ	鹿妻 洋之・ 金本 昭彦
③ 健康支援システム委員会報告	健康支援システム委員会 委員長	鹿妻 洋之
④ 地域医療ネットワークに関する動向及び委員会活動報告	地域医療システム委員会 委員長	田中 良樹
⑤ 介護・障害福祉・国保後期・子育て・保健衛生関連の制度改正について	福祉システム委員会 委員長	金本 昭彦

第2部 特別講演

「健康・医療・福祉分野の行政動向とデジタル化の今後について」	内閣官房 情報通信技術（IT） 総合戦略室 参事官	山田 栄子 様
--------------------------------	------------------------------	---------



図 特別講演の様子
(左から 田中委員長、岩田部会長、山田参事官、金本委員長、鹿妻委員長)

事業推進部 ホスピタルショウ委員会報告

1. COVID-19禍における2年ぶりの開催

国際モダンホスピタルショウ2021は、COVID-19禍にて2020年度は中止となり、この度2年ぶりに一般社団法人日本病院会、および一般社団法人日本経営協会（NOMA）主催のもと開催となりました。会場については、1998年度以降20年余りを東京ビックサイトにて開催されておりましたが、2021年東京オリンピック競技大会と重なったことから、パシフィコ横浜での初の開催となりました。

また、COVID-19禍を考慮し、期間を1日短縮した2日間の実展示開催で、ホスピタルショウオンラインと併せたハイブリッド開催となりました。

東京都が緊急事態宣言下のなかでの開催となり、開会式の中止や、入場者に対する体温測定、アルコールによる手指消毒、マスク着用必須等の対策を徹底した開催となりました。出展者側に対しても同様にブース対応者に関する入退場の管理を求められました。

・国際モダンホスピタルショウ2021

メインテーマ「健康・医療・福祉の未来をひらく ～世代や国境を越えて、いのちの躍動を～」

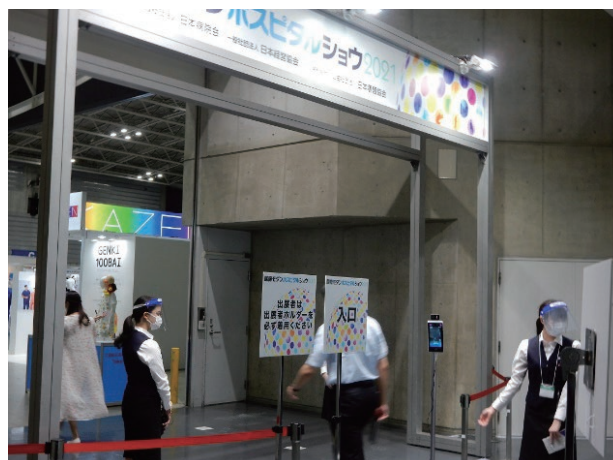
・開催期間

実展示開催 2021年7月28日（水）、29日（木） 於パシフィコ横浜

オンライン開催 2021年6月21日（月）～8月31日（火）



パシフィコ横浜入り口



展示会場入り口



展示会場の入り口では、感染対策がしっかり行われていました



会場内は密を避けるため、通路もゆったり



ホスピタルショウオンラインの画像

2. JAHISブース出展対応等の活動について

JAHISブース出展にあたっては、出展検討メンバーによる検討会を重ね、COVID-19禍における感染対策について、多くのご意見を頂戴し実現にこぎつけました。

一般社団法人ヘルスソフトウェア推進協議会（GHS）様が出展を見合わせたことによりJAHIS単独での出展となり、従来通り2小間を確保したうえで、密な接触を避けるべく、ブース対応者も3名と制限し、ゆとりを持ったスペースを確保しました。また、前回まではJAHIS会員の皆様にJAHISブースに来ていただき会話での交流や、ブース来場を示す花型のシール付けを積極的に行っていたいでしたが、今回はCOVID-19禍を考慮し積極的な話しかけ・説明・誘引を行わない方針とし、出展を計画しました。

また、その他の感染対策に対する工夫として、ブース受付へビニール幕によるパーティションや換気のためのサーキュレータ設置、資料及びノベルティの手渡しは控える等、徹底した対策を行いました。

全体来場者、出展社の少ないなかでしたが、たくさんの方々にご来場いただきました。そのなかでJAHIS会員への入会に興味を持った企業様に例年並みのアンケート回答をいただいております。また、キャッチコピーである「データヘルス時代のICTを担う」とかかげ、「JAHIS報告会2020秋」で使用した動画により、各部会からの報告を投影させていただき、このような状況のなか出展目的である「JAHIS

の活動をアピールすること」「新規入会を促進すること」に関し、一定の効果を果たせたものと考えております。

ノベルティとしては、JAHISマークを印刷したマスク、アルコールスプレー、除菌シートを準備し、ブース対応者にはPRの一環として、上記マスクを着用し対応しました。

なお、例年関心をいただき大勢の方に聴講をいただきました、出展者プレゼンテーションセミナーは、控えさせていただくこととしました。

3. ホスピタルショウオンラインでのJAHIS発信内容のご紹介

実出展後の8月31日まで継続されたホスピタルショウオンラインでは、JAHISとしては入会のご案内を全面に掲載し入会のPRを行い、「JAHIS2030ビジョン」の動画公開と冊子資料、「医療情報システムにおける標準類オーバービューチャート」に関して資料をダウンロードできるよう設定し、JAHISの取り組みを訴求しました。

- ・アクセス件数:JAHISブース訪問者数164件、ブース資料ダウンロード数22件



ホスピタルショウオンラインJAHISブース



資料ダウンロードサイト(JAHIS 2030ビジョン)

4. JAHIS会員出展状況等について

COVID-19禍の影響により、出展社数は減少しましたが、総出展社数におけるJAHIS会員出展社数の占める割合は、前回19%から26%と向上した結果となっております。

- ・会員出展社数：39社（前回2019年度：70社）
- ・総出展社数：150社（前回2019年度：375社）

当日出展においても、東京都の緊急事態宣言の発出やまん延防止等重点措置を講じる地域の広がりを見せるなか、止むを得ず出展を中止したと思われる企業様も数社見受けられました。



JAHISブース外観(受付にはパーティション)



JAHISブース内観(密を避けスペース確保)



ブース内の感染対策



JAHISマークを印刷したマスク等ノベルティ



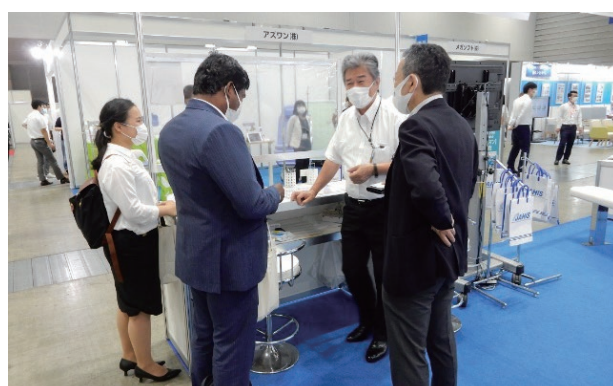
動画ディスプレイによるアピール



JAHISマスクでもアピール



興味頂いた資料を自由にとっていただく様子



JAHIS入会希望企業様への説明の様子

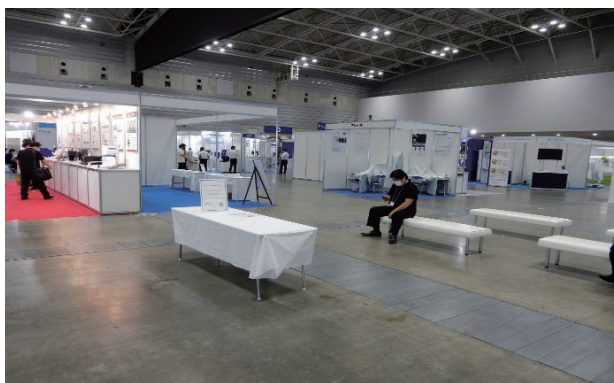


国際モダンホスピタルショウ2021 INTERNATIONAL MODERN HOSPITAL SHOW 2021

JAHIS会員 出展MAP

代表出展社 36社
共同出展社 3社
合計39社

出展企業名	小間No.
1. 2021年JAHISメンバーズ ジャパン(株)	F-23
アイテック薬品開発(株)	F-13
アライドシステム(株)	F-75
アライド(株)	F-65
徳島県立コンピュータセンター	F-55
徳島県立大学研究所	F-48
インフォコム(株)	F-57
徳島エーエス	F-38
徳島セル・クリエイト	F-10
徳島日産情報システム	F-59
徳島エーデュー	F-71
徳島電気工業(株)	F-63
2. 徳島医療情報(株) 徳島JICグループ	F-41 共同出展
七尾システムメディカルシステムズ(株)	F-76
徳島システム	F-16
徳島システム・クリエイトシステム	F-17
小林システム(株)	F-78
徳島システム・フレイム	F-32
3. 徳島情報制作所	F-38
徳島システムメディカルシステムズ(株)	F-38 共同出展
徳島システム・メディカルシステム	F-50
JIC(株)	F-41
Sky(株)	F-49
4. タク(株)	F-3
徳島システム・メディカル	F-21
5. ニッセイ情報テクノロジー(株)	F-20
徳島JIC(株)	F-70
6. 徳島システム・メディカル	F-16
PHC(株)	F-77
徳島システム・メディカルシステムズ	F-38
徳島システム・メディカル・ジャパン	F-5
富士通・Japan(株)	F-47
富士システム・メディカル(株)	F-1
富士システム・メディカル・ITソリューションズ(株)	F-1 共同出展
7. 三菱電機インフォメーションシステムズ(株)	F-34
8. 徳島システムズ	F-46
徳島システム	F-72
9. 徳島Vision	F-29
徳島システム	F-74



止むを得ず出展中止となり、休憩スペースとなった小間

5. 『医療情報システム入門 2020』キャンペーン

前回に続いて、今年も弊会サイトに優待キャンペーンを掲載し、国際モダンホスピタルショウにおいて書籍のご紹介と併せて優待購入用紙の配布を行いました。

医療情報システム入門 2020

“医療情報システム”に挑むすべての方々に向け

業界の第一線を担う専門家が、最新の現状を示した入門書です

医療情報システムの導入、開発、さらに学習、教育にもご活用いただけます！

一般社団法人
保健医療福祉情報システム工業会
Japanese Association of Healthcare Information Systems Industry

IT導入を検討されている医療関係の方々へ…

システム企業が医療分野に携わる方々へ…

医療情報システムを勉強されている方々へ…

「新しい話題、難解な用語の説明やコラムなど、
まるで評判の良い受験参考書のような
わかりやすさを実現！」

日本医療情報学会 中島 直樹 代表理事（巻頭言より）

◎JAHIS開催の“医療情報システム入門”セミナーの内容を1冊に凝縮！

◎“新時代”の医療情報システムを見通す“業界標準の1冊”！

◎JAHIS会員企業から選出された専門家が、政策・業務・技術動向を解説！

〈ご購入者様からの声〉

医療業界の現状がわかる名著 ★★★★★

網羅的でいて細部までしっかり説明されており、図・グラフとてもわかりやすい。

医療情報の現場を反映した入門書 ★★★★★

実務に精通した人が執筆しており、現場で必要な基礎的事項が網羅されている。執筆者の熱意も感じられる。

医療関係の知識が補強できる ★★★★★

仕組めが特得意門用語も多い。医療のIT・設備についての知識を補強する為に本書を購入。

株式会社 社会保険研究所

ホームページアドレス

<http://www.shaho.co.jp/shaho>

〒101-8522 東京都千代田区内神田2-15-9 The Kanda282

☎ (03) 3252-7901

FAX (03) 3252-7977

紹介チラシ

ご好評により初刷完売！増刷記念・期間限定割引販売のご案内

「医療情報システム入門 2020」

優待購入用紙 (2021年7月5日～8月31日限定)

FAX番号：03(3252)7977<または7975>

※本線の中のみご確認ください。		受付日		年	月	日
事務処理欄	CD	売分	0002	内蔵	通付	有
(フリガナ) 企 業 名	(フリガナ) ご担当者様 (御前名)	(フリガナ) (姓)	(フリガナ) (姓)	記入	R日	寄附 56
所在地						
電話番号						
会員番号 (JAHIS会員のみに)						
180705		医療情報システム入門 2020				

JAHIS会員優待価格(税込)

2,200円

非会員優待価格(税込)

3,000円

購入部数



定価 本体価格 3,000 円 +税 10%
(税込 3,300 円) B5 判 296 頁

【ご注意】

- ※ 送料は、一回の発送につき 440 円（税込）を申し受けます。
- ※ ご注文書は翌営業日に発送します。
- ※ お支払は、お届けたしますご請求書、払込取扱票にてお願いいたします。
- ※ 発送後の残丁・落丁以外の返品、交換はご容赦願います。
- ※ ご注文内容は、必ずご確認ください。
- ※ この価格のご提供は、**2021年8月31日0時迄**までとさせていただきます。

【発刊元】社会保険研究所

〒101-8522 東京都千代田区区内神田 2-15-9 The Kanda 282 電話：03-3252-7901

◆ 上記図書の詳細な内容は、本社ホームページにてご確認ください。

URL <https://www.shaho.co.jp/>

●個人情報の取扱いについて
お客様の個人情報（ご送金の振込先および購読事項に使用します。また、購読するアンケートサービス、新薬等のご案内など小社事務局の運営に使用させていただきますことをご了承ください。お客様の個人情報の取り扱いについては、当社のプライバシーポリシー（お問い合わせ先）に記載のとおりです。個人情報の取扱いに関するお問い合わせは、本誌掲載の表紙裏の小社顧客相談窓口までご連絡ください。小社はお客様の住所に加工された個人情報を収集しませんので、個人情報が流出したというお問い合わせには対応いたしません。個人情報は厳重に管理し、漏えい防止対策を講じています。ご安心ください。ご不明な点がございましたら、下記の上記ページにチェックをお付けください。個人 個人情報保護官署名等 必ずお読みください。
□今後の記事案内も希望しません。

優待キャンペーン用の購入用紙

6. 最後に

今年はCOVID-19禍における影響で会員出展社数や来場者数が減少となりました。しかしながら、JAHISとしてのホスピタルショウに向けた企画・出展活動は、更に多くの方々にご認識、ご理解をいただける場であり、訴求活動を継続するための重要な取り組みであることと認識しています。引き続きJAHIS活動の認知度向上、プレゼンス向上に向けて尽くして参ります。

既に来年度2022年7月13～15日の3日間にて、東京ビックサイトでの開催が予定されております。昨今の状況が好転することも期待しつつ取り組んで参りますので、会員皆様のご理解、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

売上高調査結果報告

戦略企画部 調査委員会委員長
(キヤノンメディカルシステムズ(株))

たけだ よしろう
武田 芳郎



1 調査概要

本調査は、一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会定款にて定められた「工業統計の整備」を行い、市場状況を把握することを目的に、保健医療福祉情報システムの売上高調査を1994年度より毎年半期毎に実施し、年間データとして集計しています。

2004年度より、時代性の変化への対応と、会員各社の要望にお答えするべく、これまで実施してきた調査項目の一部改変し、外部環境の変化に即したデータを、より正確に把握するべく下記内容を変更いたしました。

- ・病院、診療所の分離
- ・医科、歯科の分離
- ・電子カルテの病院と診療所の分離
- ・紙レセプトの医事システムとレセ電算処理の分離

本報告は、2006年度より直近の2020年度の15年間の売上高調査集計結果から市場の動向を報告するものです。

2 システム別売上高の状況

保健医療福祉情報システムの全体市場規模は工業統計の直接売上高より判断できます。「図1 直接売上高推移」の2006年度から2020年度の推移を見ると、2006年度と2010年度がほぼ横ばいに、2012年度は約140億円、2014年度は約470億円減少しておりますが、15年間で全体の売上高が約3,373億円から約4,975億円と1.5倍に増加しております。傾向としては診療報酬改定の年度は横ばい、もしくは減少していることから、システムへの投資を控え、改定の影響を見極めている傾向があるのではと考えております。2020年度はCovid-19の影響もあり、対前年▲881億円、85%となりました。また、回答会員会社数も▲51社、83%となりました。

1) 病院情報システム

病院情報システムの直接売上高は2006年度の約2,311億円から2020年度の3,115億円と拡大し、15年間で約1.3倍の伸びを示しています。病院情報システムの売上高が全体の売上高に占める割合は60%～70%であり、非常に大きな割合を占めています。市場環境では、電子カルテシステムの普及が大規模病院を中心に進み、売上高も拡大を続けてきました。近年では都道府県が策定する地域医療再

売上高(億円)	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
病院	2,311	2,382	2,650	2,836	2,900	3,416	3,309	3,824	3,376	3,756	3,341	3,429	3,696	3,603	3,115
診療所	355	419	420	570	467	490	488	558	532	570	578	593	578	602	565
歯科診療機関	132	277	190	236	224	303	254	303	272	219	293	301	270	288	254
医療関連施設	192	230	331	325	362	432	484	543	557	685	626	669	763	671	475
保健関連施設	76	71	85	95	104	98	99	92	95	99	174	146	129	126	120
介護・福祉関連施設	196	154	155	170	171	212	179	238	260	297	384	265	325	295	234
その他施設・機関	111	134	153	176	170	125	125	157	149	113	235	252	311	271	212
合計	3,373	3,667	3,984	4,408	4,398	5,076	4,938	5,715	5,241	5,739	5,631	5,654	6,072	5,857	4,975
会員会社数	336	343	329	341	347	354	347	357	370	370	366	373	368	377	371
回答会員会社数	272	314	299	311	312	318	314	321	328	331	332	341	320	298	247

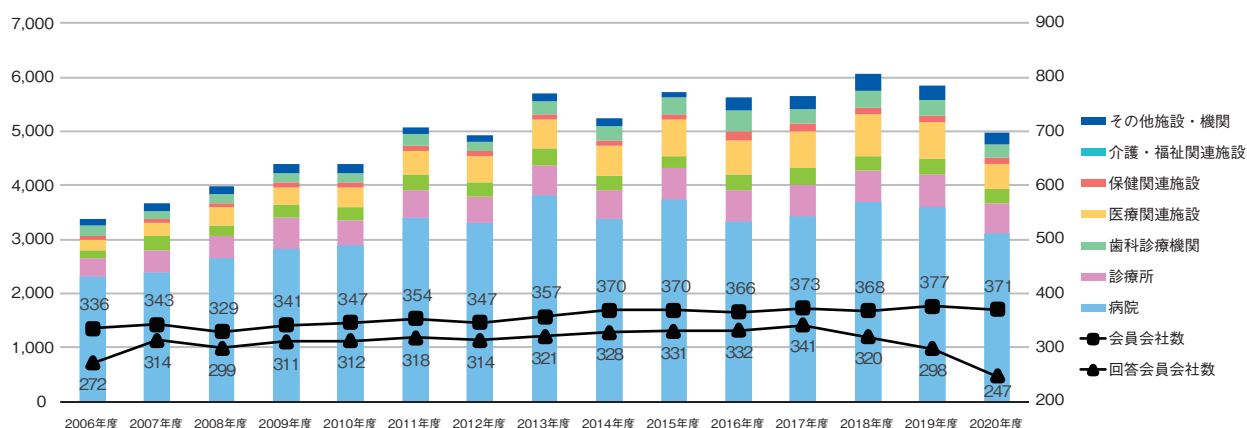


図1 直接売上高推移

生計画に基づき、ICTを活用した地域医療連携が促進されています。また、2010年の外部保存通知の改正により、医療分野のクラウドサービスの提供が可能となり、SaaS型電子カルテシステムが注目されています。クラウドサービスはコストの削減、運用における情報管理担当者の設置等の負担軽減が期待されることから、中・小規模病院を中心に急速に普及が進む可能性があります。2020年度はCovid-19の影響もあり、対前年▲488億円、86%となりました。

2) 医科診療所システム

診療所情報システムの直接売上高は、2006年度の355億円から2020年度の565億円と拡大し、15年間で約1.6倍の伸びを示しています。2009年度に売上高が急激に伸びていますが、これはレセプト電子請求移行に伴う助成金の交付により、買換え需要が高まった影響と推察されます。また、2013年OSのサポート終了で、売上高が急激に伸びていますが、全体では電子カルテの普及率拡大の余地もあり、売上は順調に伸張しています。

病院が医師不足や経営の悪化により数を減らす一方、勤務医から開業医へと転向する医師が増加しており、診療所数は年々増加傾向にあります。厚生労働省の『医療施設（動態）調査・病院報告の概況』によると一般診療所の施設数は2019年には102,616となり、開業医の増加が市場の拡大を下支えしていると考えられます。2020年度はCovid-19の影響もあり、対前年▲37億円、94%となりました。

3) 歯科診療機関システム

歯科診療機関システムの直接売上高は、2006年度の132億円から2020年度の254億円と15年間で約1.9倍の売上の伸びを示しています。この分野では2014年度のレセプト電算システムの完全義務化への対応およびレセプトオンライン請求の普及に伴い今後も更なる市場拡大が期待されます。2020年度はCovid-19の影響もあり、対前年▲34億円、88%となりました。

4) 医療関連施設システム

医療関連施設システムの直接売上高は、2006年度の192億円から2020年度の475億円と拡大し、15年間で約2.5倍の伸びを示しています。主に調剤薬局と臨床検査センターのシステムがこの区分に該当しますが、特に調剤薬局システムの売上がレセプトオンラインの義務化を契機に伸びています。電子版お薬手帳や電子処方箋への対応など今後の成長が期待される分野と考えられます。2020年度はCovid-19の影響もあり、対前年▲197億円、71%となりました。

5) 保健関連施設システム

保健関連施設システムの直接売上高は、2006年度の76億円から2020年度の120億円と拡大し、15年間で約1.6倍の伸びを示しています。

主に健診・健康支援システムがこの区分に該当しますが、2008年度から開始した特定健診・特定保健指導が一つの要因と考えられます。2015年データヘルス計画が策定・実施され、さらなる成長が期待される分野と考えられます。2020年度はCovid-19の影響もあり、対前年▲7億円、95%となりました。

6) 介護・福祉関連施設システム

介護・福祉関連施設システムの直接売上高は、2006年度の196億円から2020年度の234億円と拡大し、15年間で約1.2倍の伸びを示しています。

2006年度の介護保険法の改正での売上高の急増後は減少が続いていますが、本分野は介護保険により運用されているため、介護報酬改定や障害者自立支援報酬改定に伴う報酬改定からもシステムの仕様に影響を受けます。一方、この市場は超高齢化社会の到来や介護報酬の伸張に伴い、市場の拡大が見込まれます。2020年度はCovid-19の影響もあり、対前年▲60億円、80%となりました。

7) その他システム

その他システムの直接売上高は、2006年度の111億円から2020年度の212億円と拡大し、15年間で約1.9倍の伸びを示しています。

主に厚生労働省や経済産業省等の行政サービスシステムや健康保険組合の医療保険（健）業務等システムがこれに該当し、前述の6区分以外となるシステムもこの区分に該当します。この15年間の売上高トレンドでは、増減を繰り返していますが、2016年以降増加傾向となっております。今後も市場動向に注視する必要があります。2020年度はCovid-19の影響もあり、対前年▲58億円、78%となりました。

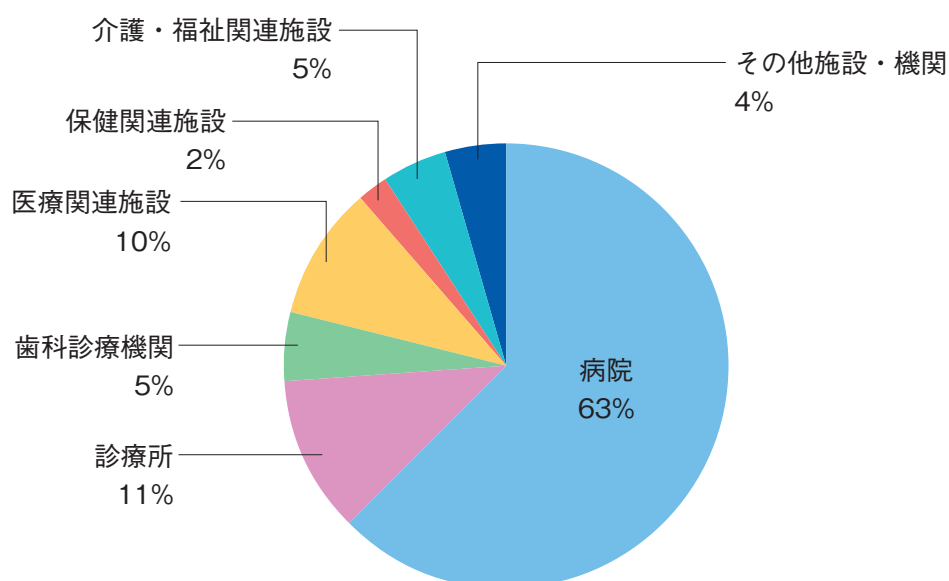


図2 2020年度システム区分別売上高構成

3 おわりに

本調査は、JAHIS創立以来定期的に継続実施している調査であり、市場予測を行う上でも重要なデータ源の1つと言えます。そのため本調査の精度と回答率の向上が市場予測にも大きく影響することをご理解いただき、今後とも会員各社のご協力・ご支援をお願い致します。

コロナ禍の医療介護情報連携とICT利活用

保健福祉システム部会

地域医療システム委員会副委員長（兼）医療介護連携WGリーダー
（富士フイルムヘルスケア株）

みつぎもとひろ
光城 元博



本稿では、医療介護連携WGで行った調査事業の報告内容を中心に、コロナ禍におけるICT活用のメリットやポイントについて事例を中心に述べます。

新型コロナウイルス新規陽性者数の急増に対応するために政府は8月初め、新型コロナウイルスの入院対象を重症者や重症化リスクがある人を中心に絞る方針を示し、自宅療養を「原則」に転換しました。往診や訪問看護、オンライン診療などのICT活用が進んでいます。

感染拡大地域で往診を行う医師からは、「保健所から自宅療養者の往診等対応依頼の電話が、ひっきりなしにかかってくる。電話対応で業務が回らなくなった。」「酸素飽和度が低下した患者でも当日入院が困難だ。入院調整に時間がかかるようになってきた。」「自宅療養者のうち、保健所がフォローできているのは約半数だろう。」という厳しい状況を訴える声がありました。

東京都における8月1日時点の自宅療養者は約1万1千人でしたが、8月12日には2万人を超え、本稿を執筆している現在（9月初め）は、2万人を超えた状態が続いています。保健所の職員は「ずっと電話がけをして頑張っています」と言います。看護師などが24時間体制で軽症や無症状の人に対して、電話等で健康観察を行う「自宅療養者フォローアップセンター」が対応にあたっていますが、感染拡大により、かかってくる電話が急増し、対応が追いつかない事態になっています。さきほどの医師の現場感覚に当てはめると、東京都内だけでも約1万人もの自宅療養者が、保健所や医療職とつながっていないことになります。お互いの時間がぴったり合わない情報が伝わらない電話ではなく、時間に関係なく患者と医療者をつなぐことができるICT利活用が重要です。

当WGが調査研究を行っている、入退院時など医療介護間の情報連携も、いまだ電話とFAXが主流であり、多くの地域で十分にICTが活用されているとは言えません。しかし、コロナ禍で、集合形式による多職種連携会議や、対面での情報交換が困難となり、ICTによるつながりを求める医療職・介護職が増えています。ある地区医師会に話を聞くと「感染拡大をきっかけに、在宅医療介護連携ICTのユーザー数が増加した。」とのことでした。

コロナ禍のICT利活用の実態を調査研究することで、平時の在宅医療介護連携ICTの普及推進策を検討できると考え、コロナ禍の医療介護現場の声をご紹介します。

1. 「隔月刊 地域連携 入退院と在宅支援」オンラインイベント（2021年7月27日）

当WGが会員となっている日総研主催の「隔月刊 地域連携 入退院と在宅支援」読者限定の交流会に出席しました。退院調整看護師ほか約30名が参加していました。Zoomのブレイクアウトセッション機能を使った、グループディスカッションでは、コロナ禍のICT活用などが話題となっていました。参加者のおもな発言は次のとおりです。

- ・ コロナ禍でオンラインのサービス担当者会議が増え、遠方の息子も参加しやすくなった。遠方に住む家族による盆暮れの「ちゃぶ台返し（注1）」が減った。
- ・ 在宅クリニックのMSWが「Zoomの導入支援アウトリーチ」を行っており、コロナ禍でもクリニックと患者宅がオンラインでつながる地域づくりを頑張っている。
- ・ 退院調整看護師が、オンライン・カンファレンスの普及推進を担当している。機材不足が問題だが、コロナ禍で地域全体が「みんなICTを使おう!」という雰囲気になっている。
- ・ オンライン・カンファレンスは、遠方の家族が参加できるのがよい。リハビリの様子を撮影して、動画で家族に見せている。家族に好評なので、入院中のリハビリ動画を卒業記念（退院時）に渡す計画だ。
- ・ 夜間のオンライン面談、動画の送信で、いままでと違う家族とのつながりができた。病院での入院時のオンライン面会が一般的になれば、介護施設での入居者のオンライン面会も普及する。
- ・ しばらく面会できず、家に帰ってきて、悪化に直面して「こんなはずじゃなかった……」と落胆する家族がいた。オンライン面会をやっておくべきだった。
- ・ コロナ禍で要介護者の声やニーズが見えにくくなった。ある地域包括支援センターは往復はがきでニーズを拾ってマッチングしているが、ICT化が必要。
- ・ 電話で家族へ病状を伝えるようになったので、若い看護師が情報を整理してから電話するようになった。これまでは急な家族の来院、面会での病状説明であったため、あたふたして丁寧なことばで伝えられなかった。電話での病状説明が、看護師の教育になった。
- ・ 入院すると面会できないので、在宅療養を希望する患者が増加。例年の1.5倍の退院時共同指導を行った。
- ・ 退院が決まって、ばーっと待っているケアマネは減った。病院に積極的に情報を取りに来るケアマネが増えた。
- ・ 退院支援の開始が入院前の外来へと早まり、今は「入院させない支援」に変わってきている。

注1：たとえば末期がん患者と同居する娘が納得して、治療の中止と在宅緩和ケアを選択したにもかかわらず、遠方の息子がお盆や年末年始に帰省した時、久しぶりに見て弱った親を見て「最後まで諦めるな!」と無理やりがん拠点病院へ入院させようとするなどの行為。普段、親の世話をできていない後ろめたさからくる行動と考えられている。

2. 令和2年度厚労特研「コロナ対応を踏まえた、在宅医療・介護提供体制強化の研究」

令和2年度厚生労働科学特別研究「新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえた、地域における医療提供体制の強化のための研究」（研究代表者 吉村健佑先生（千葉大学））の分担研究「新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえた、在宅医療・介護提供体制の強化のための研究（在宅医療）」（研究者 村松圭司先生（産業医大））より、2021年1月～2月に実施された、在宅療養支援診療所と訪問看護ステーションのヒアリング結果から情報共有とICT利活用に関する現場の声を「医療介護連携」「事業所内連携」「行政との連携」「BCP対応」に分類して紹介します。

<<https://mhlw-grants.niph.go.jp/project/145926>>

（1）医療介護連携

- ・ 難治性潰瘍が足にある方が、コロナの影響で家に帰りたいという希望がありました。難治性だからなかなか治らないですけれども、訪問看護ステーション側から「指示をもらえれば、やって、写真撮って、報告して、指示変更があれば連携用のICTで伝えてもらえれば、その日のうちに対応します」と伝え、特段トラブルなく対応できました。（訪問看護ステーション）
- ・ コロナ前は、複数名で退院時カンファレンスに参加していました。コロナ禍で一方向的に看護師は1人だけと言われ、退院指導を訪問看護ステーションの代表だけしか聞けなくなりましたが、2020年10月くらいから、大きな病院でZoomを使うとか、いわゆるオンラインで退院時指導を患者さんや家族も一緒にということができるようになりました。意外とできていないのが、大学病院で、オンライン会議がなかなか、組織が大き過ぎてシステム化できていないような気がしました。（在宅療養支援診療所）
- ・ サービス担当者会議もほとんど開かなくて、文書で伝えて下さいというのが今は約9割です。皆さんが集まって見えてくるものが結構あるので、そこが見えてこないというのは、一方的な文書では、なかなか代わりにならないような気がします。（在宅療養支援診療所）
- ・ 地域の訪問看護ステーションでは、ICTを使用したいとの意見が多いが、病院が対応してくれないケースが多い。病院の連携室でもっとも多いのはFAXなのですが、パソコンで作成した書類を印刷してFAXすることの意味はないと思います。（訪問看護ステーション）
- ・ ケアマネジャーも情報を得られておらず、書類上は明らかに重度で、これは療法士が介入しても変わらなそうだ、と思えたのですが、実際に行ってみて入ってみたら、かなりADLが上がっていて、最初は寝たきりだったのが、今は歩行してトイレに行けるぐらいまで回復できる人で、この方は書類だけで判断していたら、もしかしたら断っていたかもしれないと思いました。（訪問看護ステーション）

（2）事業所内連携

- ・ あまりカルテは見られないという状態です。パソコンはみんなに配布されているのですが、紙ベースの基本情報が全部事務所にあって、それを見るのに「濃厚接触者とならないよう10分以内」と制限されているのもありますし、なかなか顔を合わせる機会がないので、スタッフの孤独感はすごくあります。（訪問看護ステーション）

- ・ 元々担当制ではなく、チームで1人の利用者さんを見るというやり方にしていた。そうすると、1人の利用者さんに対して、全員が同じ知識と情報を持っていないと、ケアがバラバラになってしまう。コロナ禍で情報共有ができなかったところで服薬ミスが起きてしまった。結局、トラブルが続いたので、担当制に変更しました。コミュニケーションが取れなかったことで、役割とか責任感が持てず、仕事に対するモチベーションの低下にもつながってしまったと思います。(訪問看護ステーション)
- ・ 直行・直帰になりますと、コロナとは関係なく、非常にコミュニケーションが取りにくいのと、何かリスクが生じたときに対応が遅れてしまいます。そこが一番問題ですので、直行・直帰に関しては無しになっています。(在宅療養支援診療所)

(3) 行政との連携

- ・ 保健所設置市と県との対応が異なる。情報開示を求めても、片方は開示するのに、もう片方は開示できないと回答される。用語の定義も異なるので、統一が必要と感じた。(在宅療養支援診療所)
- ・ サービス提供エリアが3つの市にまたがっていて、それぞれ別の保健所が管轄なのですが、同じ状態でも保健所の判断は少し違っていて、対応に苦慮しました。(訪問看護ステーション)

(4) BCP対応

- ・ 介護保険報酬改定(注2)でも取り上げられていますが、やらなきゃいけないと思いながら、まだやっていません。作れない理由は、単純に時間が無いとか、優先順位が低いのです。小規模な事業所なので、実際、訪問看護ステーションの管理者である自分に明日突然何かあったら、何一つ回らなくなるのが事実なので、BCPの重要性は理解しているのですが、着手できない。(訪問看護ステーション)
- ・ 事例ごとに、この事例に関してはコロナの可能性は少なく、厳密なPPEは必要ない等のアドバイスはしました。きちんとした教育や情報共有は、今からでも必要だと思いました。(在宅療養支援診療所)
- ・ コロナに関する知識、対策を書いたパンフレットの作成をして、これを施設、家族へ配布しました。またコロナをテーマにしたオンラインの研修会を行いました。さらに、地域の在宅ケアネットワークではメーリングリストもあって、そこに可能な限り、コロナに関する情報を流すようにしました。(在宅療養支援診療所)

以上、複数のケースで、ウェブ会議システムや医療介護情報連携システムを活用した機能間連携が有効であったとの回答がありました。一方で、入院医療機関にICT利用を依頼しても対応してもらえなかったと回答したケースがありました。

注2：2021年度の介護報酬改定で、感染症や災害が発生した場合であっても、必要な介護サービスが継続的に提供できる体制を構築する観点から、全ての介護サービス事業者を対象に、業務継続に向けた計画等の策定、研修の実施、訓練(シミュレーション)の実施等を義務づけた。ただし3年の経過措置期間を設ける。2024年度より完全義務化される。

3. 東京・コロナ禍で考えた8つのやるべき対応

8月23日から東京にてコロナ禍の災害支援として、在宅医療専門クリニックのコロナ専従ルートを担当する総合在宅医療クリニックの市橋亮一先生（医療法人かがやき理事長）は、救える命が救えるように仕組みを整えていければという願いから、8つの提案を示されました。重要かつICT利活用にも言及なさっていますので、以下にご紹介します。

（1）治療効果の高い順にやるべきことはなにか？

最低でも6つのボトルネックがある。しかもこの順に予防的かつ有効で、重要である（例：病床数増やしてもワクチン接種が増えなければいつまでも収束せず、さらに病床が必要になるなど）。

- ① ワクチンが足りなくて、ワクチン接種を早くできない（ワクチン不足）
- ② 保健所が忙しくて、連絡が遅れて重症化する（業務量がオーバーフロー・フォローアップ困難）
- ③ 軽症の時点でカクテル療法を開始できず、重症化する（外来不足）
- ④ 入院でなくても在宅で治療対応できる人が、医療者不在、保健所がつながらず、不安で救急車を呼んでしまう（在宅医・看護不足）
- ⑤ 酸素不足（地域の酸素濃縮器の台数の不足）
- ⑥ 病床不足

（2）やるべき8つの対応

総括：コロナウイルス感染の本質は「初期対応抗体不足」病ともいえるのでは。ワクチンを打つ、もしくは、最初の7日間に中和抗体を入れることができれば安定化できるが、そうでなければリスク因子がある患者で重症化し、コストがかかる。予防&早期対応が重要！

【やるべきこと1】ワクチンのファストパスを作る（対策：ワクチン不足）。ワクチン供給が限られているのであれば、重症化リスクがわかっている人に的を絞ったほうがよい。だから若年者に打つ時に、すべての人を一律に扱うのではなく、30－50代の重症者を予測してそこに重点的に打つ（ワクチンのトリアージ）。重症化リスクがある人は、若年層では未診断なので、自己診断できるメタボの人をスクリーニングとして基準にしてよい。BMIで説明すると難しいので、簡易的に「腹部周囲径（へその高さの腹囲）が男性85cm・女性90cm以上のメタボリックシンドローム予備軍」としてしまおうとわかりやすい。他の重症化リスク疾患もケアする（65歳以上、悪性腫瘍、COPD、慢性腎臓病、2型糖尿病、高血圧、脂質異常症、肥満（BMI30以上）、喫煙、固形臓器移植後の免疫不全、妊娠後期、ステロイド、生物的薬剤、HIVによるリンパ球減少）。アクセスを高める（電話1本で予約できる）ということを行うほうがより効率的。背景として、特に東京の重症者では、「太った中年男性」が多くなっている。

【やるべきこと2】保健所のフォローアップを開業医に外注するための予算を準備、実行する（対策：保健所マンパワー不足）。毎日10人在宅患者が増えると、10日後には電話するべき人は積みあがって100名になる。1人当たり10分間（5分間の聞き取りと、5分間の記録、連絡）としても、1,000分（16時間＝常勤スタッフ2人分）となる。フォローアップの電話時間が増えることで、保健所業務がオーバー

フローすることによる機能不全が起こる。フォローアップの人件費分を、遠隔診療などで地域の医師・看護師に分散したいが、人を雇用するなどが必要になり、各クリニックが持ち出しでやってもらうことになるとうり上げ人数が少なすぎて誰もやろうと思わなくなり、結果として保健所機能の低下、重症化の発見遅延、コスト増につながる。

【やるべきこと3】 保健所のフォローアップのIT化（対策：保健所マンパワー不足）。すべてを電話で行うのではなく、入力フォームにすることで簡素化をはかる。特に「改善傾向」になっている人の連絡はスキップし、「増悪傾向」＞「横ばい」の順に時間をかけるようにトリアージをする。改善傾向になる人のほうが80%と多いので、その人たちに割く時間を減らし、悪化する残り20%へのアプローチをより優先する。そのトリアージがITで自動的に優先度がソートできるようにする。患者自身は若く、スマートフォンが使える人が多いので、それぞれに入力作業をしてもらうほうが良い。

【やるべきこと4】 カクテル療法の説明会を行い、外来でカクテル療法ができる準備をする（対策：外来不足）。新規のカクテル療法は0.2%のアナフィラキシーショックがあり、また新薬でもあるため開業医が積極的に行いたいというものにはならない。しかし発症7日間のうちに45人打てば、1名の重症・死亡患者を救うことができる有効性の高い治療である。そのためにPCR検査と同時に抗原検査を行い陽性と診断したときに、そのまま大病院・開業医でカクテル療法を行ってしまうことが望ましい。外来で対応できる開業医がいたら、コロナ患者への対応という負担もかかるため何らかの補助を行いながら推進していくことが望ましい。

【やるべきこと5】 コロナ専従医師ルートと地域開業医のネットワークを作りトリアージする（対策：在宅医不足）。そのために、ファーストタッチをなるべく地域開業医で行い、自宅で重症化して訪問診療が必要になる場合には、PPE脱着なども含めて複雑になるので、コロナ専従医師ルートを作ることが望ましい。開業医に対してコロナ診療ガイドライン5.2の紹介のみではなく、教育的な動画で対応を伝えることがよい。デルタ株以降、コロナ診療は逃げ切れるものではなく、積極的に扱っていくべきものという認識にかわる必要があると伝えるとよい。専従医師ルートは2列あると地域を限定することができて移動時間を減らせてよい。現状の診療報酬では採算割れになっているので、持続実行可能な報酬体系へ移行することが必要である。

【やるべきこと6】 酸素の中央配管がある場所を、酸素ステーションにできるように準備しておく（対策：酸素不足）。在宅酸素が不足してくるので、酸素ステーションを作ろうという話になるが、東京などのステーションでは酸素濃縮器を配置している。それでは自宅での酸素濃縮器を集めただけで、酸素を吸うことができる人数の総数は増加しない。中央配管があるところの活用が増えることが必要であり、逆に酸素を吸わない人は配管のある場所では診療しないほうが良い。一時的にすべて酸素が必要なコロナ患者を収容できるように、現在収容している酸素不要患者を配管のない簡易的な介護施設に出せる施設を想定しておくべき。そのために、「自宅への退院患者を増やす（対策：病床不足）」、「コロナ病院を決めておく（対策：病床不足）」、「産業用の酸素を転用できるように準備する（対策：酸素

不足)」、「資金が足りなくてできないのであれば地域産業界へも支援を依頼する」。

【やるべきこと7】酸素濃縮器の回収とクリーニングの方法を周知し、各クリニックで行うことのできるマニュアルの策定・教育・周知（対策：酸素不足）。酸素業者がクリーニングすると酸素濃縮器のクリーニングに2週間以上の期間がかかることがある。そうすると地域で使用できる濃縮器の数が減ってしまう。緊急時にはコロナ患者に使用する酸素は、定められたクリーニングを診療所で行い、すぐに酸素を再度利用できて回転数を高めることが必要である。酸素濃縮器を各クリニックにリースとして月単位で貸し出す仕組みも可能なのでそのような契約を結ぶようにすればよい。

【やるべきこと8】大病院の緊急でない予定手術の延期による病床の確保（対策：病床不足）。感染者数の増加に10日間前後して遅れる形で重症者が増えることが予想される。想定重症者数を割り出すことで、各大病院に想定する受け入れ重症者人数をあらかじめ割り当てておくことが可能である。軽度の疾患の手術は感染者数が多くないときに再度スケジュールしなおすことを患者さんに協力要請することが可能であり、時間的に病床を増やすことを計画することが望ましい。イギリスでは、病床数のコントロールがこれで大幅に可能となった。

以上のとおり、今回の調査ではコロナ禍の現場で往診や訪問看護にご尽力する方々から、ICTによる効率化の重要性など多数の意見を得ることができました。保健所に積みあがっている紙やFAXに書かれている内容を、入力時点からデータ化することで分析が可能となり、予防的な先回りでの対応の可能性があることも分かりました。

ある地区の新型コロナウイルス感染者の入院調整と往診時の情報連携項目をみると、PCR検査陽性日や酸素飽和度など、特徴的な情報連携項目はありますが、患者属性や保険情報、家族構成、既往歴、内服歴、ADL、利用中の介護サービスなど、平時の医療介護連携と共通する情報項目が多数ありました。また自宅療養者を往診する医師は、「入退院連携や、自宅での治療の在り方について、病院との協働体制を作っておく必要がある。」とおっしゃっていました。これもコロナ禍と平時の医療介護連携に共通する解決すべき課題です。

パンデミックや近年増加している大雨特別警報発令時などの有事にICTを活用するためには、平時から日常的に使われるICTであるべきです。普段使っているICTでなければ、いざというときにID・パスワードや操作方法を忘れてしまい使えません。平時のICT利活用シーンとして、在宅医療介護連携があり、有事にも患者や要援護者の命や暮らしを護る社会インフラと位置づけられることが、在宅医療介護連携ICTの普及推進につながると考えます。

地域医療システム委員会および医療介護連携WGはこれら調査事業の報告内容を踏まえ、医療・介護分野のより効果的な標準化を推進していきます。

表彰受賞者紹介

戦略企画部
ヘルスソフトウェア対応委員会
委員
(富士通Japan(株))

かなみつ あき
金光 暁



この度は2021年度総会にて表彰をいただき、誠にありがとうございます。今回の表彰は、ヘルスソフトウェア対応委員会にて、薬機法に係わる活動に対していただいたものとなります。ソフトウェア単体でも医療機器となりましたが、ソフトウェアについては、医療機器への該当性についての判断が難しいケースが多くございます。そこで、2018年より、日本医療機器産業連合会の改正法検討WG（旧法改正WG）にオブザーバーとして参加させていただいております。当WGでは薬機法改正内容について議論がされておりますが、JAHISに今後関連する可能性のある内容を可能な限り抽出し報告するようにしています。また、2021年2月の「プログラムの医療機器該当性に関するガイドライン（案）」に対する意見募集においては、従来、医療機器への該当性判断を行うにあたり疑問となっていた点を中心に意見をあげさせていただきました。現時点でも医療機器の該当性については不明確な部分も多くございますが、JAHIS関連の製品において該当性判断をする際の判断材料を少しでも提供できていましたら幸いです。今後も薬機法に係る活動を継続し貢献できるよう努めてまいります。

戦略企画部
ヘルスソフトウェア対応委員会
委員
(日本電気(株))

こま い まさひろ
駒井 理弘



ヘルスソフトウェア対応委員会でお世話になっております日本電気(株)の駒井です。この度2021年度総会におきまして表彰いただき、誠にありがとうございます。

今回表彰頂いた活動は2021年3月厚生労働省「プログラムの医療機器該当性に関するガイドライン」案に対するJAHISとしての意見収集と認識しております。

当該ガイドラインは、特定のプログラムが、医薬品医療機器等法の医療機器に該当するか否かについて、開発業者に対し、医療機器プログラム開発に係る事業であるかの判断を明確に事前に行うために活用することを目的としています。当委員会では上記目的を認識し、医療機器開発に不慣れな事業者もいることを念頭に、より分かりやすい説明の提案、言葉の定義の明確化、より具体的な医療機器/非医療機器プログラム事例説明などを意見提出し、当該ガイドライン案の改善に寄与できたと考えております。意見取り纏めにご尽力頂いた委員長、メンバーのご協力があり、短期間で提出が実現できたと痛感しております。また、当該活動で医療機器プログラム規制やガイドラインに関し、大変勉強になり、今後もヘルスソフトウェア発展に貢献できるよう努力していきたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

医事コンピュータ部会
電子レセプト委員会 副委員長
(PHC株)

みやわき しんじ
宮脇 伸次



医事コンピュータ部会の電子レセプト委員会等でお世話になっておりますPHC株式会社の宮脇です。この度は、2021年度第11期定時社員総会で功績賞の表彰をいただき、誠にありがとうございました。受賞の対象となりました「令和2年4月診療報酬改定の実態調査による施策実施状況と評価およびその考察」の論文は、医療保険業務研究協会の受託事業として、電子レセプト委員会の記載要領電子化WGのみなさまと作成を行ったものであります。今回、論文の作成において、感染防止等に配慮したオンライン会議等で議論をするなど新しいスタイルで実施し、最後まで取りまとめることができました。この場をお借りしてWGのみなさまには、深く御礼申し上げます。本研究では、「レセプトの電子請求」という切り口から、JAHISとしての独自の視点での課題提起、そして、どのように改善をしたらいいのかなど具体的な実効性のある提言を行いました。この提言は、本研究の目標である「診療報酬改定に関わるすべての人にとっての効率化・作業負担の軽減」の実現へと近づけるものであると自負しております。引き続き、電子レセプト委員会の活動を通じて、診療報酬制度の適正化について、少しでも貢献できるように尽力していく所存でありますので、みなさまの変わらぬご支援とご協力のほど、宜しくお願い致します。

医療システム部会
部門システム委員会
病棟業務支援システム専門委員会
看護情報WGメンバー
(日本電気株)

しおさき ひろこ
汐崎 弘子



病棟業務支援システム専門委員会 看護情報WGで、サブリーダーを務めさせていただいております汐崎です。この度は第11期定時社員総会におきまして表彰していただき、誠にありがとうございます。

看護情報WGでは、現在「看護情報データ規約Ver.1.0」を作成しています。看護情報は、医療現場において、数多く多様な形式で日々発生し保存・管理されていますが、標準のデータ形式として広く普及したものはまだありません。そのため、まずは看護情報のなかでも発生件数が多く、患者状態の把握や評価に必要な情報で、チーム医療やその他の場面で多職種から参照・活用される「ケア情報」を対象として、規約の作成に取り組んでいます。WGではメンバーの方々が積極的に参加され、業務分析や項目検討などご協力をいただき整理をすすめています。色々な情報や意見が交わされる場に参加させていただき、自身の成長にもつなげることが出来たと感じております。

今後も継続して、看護情報の規約作成やデータ利活用・連携などの検討をとおして、医療情報の標準化に貢献できるよう努めてまいります。引き続き、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

医療システム部会
部門システム委員会
物流システム専門委員会 委員
(一社)日本医療機器ネット
ワーク協会)

たむら ゆういちろう
田村 雄一郎



部門システム委員会 物流システム専門委員会にてお世話になっております(一社)日本医療機器ネットワーク協会の田村です。この度は第11期定時社員総会におきまして表彰していただき、誠にありがとうございます。

今回の表彰は医療材料EDI標準という課題に対し、所属団体の業務と深く関わりのある分野であり、今後の重要課題でもあるという部分で意見交換を進めることが出来た事が認められたものと認識しております。

COVID-19の影響もあり医療材料の受発注業務でもテレワークの対応等求められてきております。そのような情勢の中で、EDI標準化の必要性は重要課題であり、今後より一層の理解が求められるものと感じております。物流分野は医療情報分野からは切り離されて考えられることも多く、後手に回されてしまう事が往々にしてありますが、医療安全・トレーサビリティの観点や病院経営という視点から、今後より一層注目すべき分野になると思われます。

JAHISという医療情報分野の標準を担う団体において医療物流も包括的に標準化が進められることに大きな意義を感じております。引き続き皆様のご支援、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

医療システム部会
検査システム委員会
病理・臨床細胞部門システム
専門委員会 専門委員長
(株)ニコン)

すずき あきとし
鈴木 昭俊



医療システム部会 検査システム委員会 病理・臨床細胞部門システム専門委員会でお世話になっております(株)ニコンの鈴木です。この度は2021年度JAHIS定時社員総会におきまして、表彰をいただき誠にありがとうございました。病理・臨床細胞部門では、新たなモダリティであるWSI(Whole Slide Image)を中心にデジタルパソロジーが進められています。今回受賞をいただいた「JAHIS病理診断レポート構造化記述規約Ver.2.0」は、そのデジタル化を進めるにあたり、検査レポート検討WGで制定した「JAHIS診療文書構造化記述規約共通編」を基にサンプルコードを記載するなど、より判り易く再編集した診療文書構造化記述規約の個別編にあたる病理診断レポートを定義したJAHIS標準です。

専門委員会の皆様のご協力のもと、患者データを取り扱う「JAHIS病理・臨床細胞データ交換規約」、顕微鏡画像を取り扱う「JAHIS病理・臨床細胞DICOM画像データ規約」とともに、日本においても海外に遅れることなく、病理・臨床細胞分野のデジタル化に必要なJAHIS標準を揃えることができました。これからも皆様のご協力とともに、先生方のご支援をいただきながらさらなる普及を目標に活動していく所存であります。引き続きご指導とご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

医療システム部会
セキュリティ委員会
JAHIS/JIRA合同MDS-WG
委員（JAHIS側リーダー）
（株）グッドマン

しものかねき
下野 兼揮



JAHIS-JIRA合同開示説明書WGのリーダーを務めさせていただいている下野です。この度は2021年度総会にて表彰していただきありがとうございました。

本WGでは、医療情報システムのセキュリティ機能を説明するために、厚生労働省の「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」の「C.最低限のガイドライン」の技術的項目の対応状況を示すチェックリスト及び、その書き方を示すガイド、Q&A集の発行、メンテナンスを行っています。

2021年3月に「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第5.1版」に対応した「製造業者/サービス事業者による医療情報セキュリティ開示書Ver.4.0」とそのガイドを公開いたしました。Ver.4.0では、医療情報システムがクラウドでも使用されるようになったことを受けてサービス事業者にも対応しました。

Ver.1.0公開時に比較すると本開示書の普及が進んで来ましたが、まだ充分ではありません。日本の医療情報セキュリティレベルを上げるためにJAHIS会員企業の皆様には率先して本開示書を使用していただきたいと考えています。また、今後HELICS申請を進めて、本開示書が医療情報システム/サービスのセキュリティ機能を示す標準書式となることを目指します。

標準化推進部会
普及推進委員会 委員
（メディカルデータベース(株)）

みやむら のぶてる
宮村 信輝



普及推進委員会でお世話になっております宮村です。2021年度総会において表彰いただき誠にありがとうございます。さて、JAHIS2030ビジョンにはデータを利活用する上で、共通技術基盤の確立には標準化が不可欠であり、その推進はJAHISの取組みの中心であると掲げられています。「推進」とは標準類の制定に加え、その存在を知らしめ使用されるよう「普及」させることであると考えております。その一翼として、本委員会では「現場最前線にいる営業マンが医療情報の標準化に対する取組みを理解し、積極的に提案できるよう普及活動を行う。」ことを第一の目的として活動しております。

今回の表彰は「営業向け医療情報標準化セミナー」の完遂に対するもので、このセミナーはこれまで取り組んできた「パンフレット発行」、「JAHISサイトの整備」などに続き、更なる普及推進を図る取り組みとして行われました。セミナーを成功裏に開催できたことは、コロナ禍の中どのような形での開催が効果的なのか喧々諤々の議論をし、それを取りまとめた委員会メンバーのお力のおかげであり、この表彰はその代表としていただけたものと受け取っております。標準化の普及推進は医療に貢献する重要な役割であると考えております。引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

標準化推進部会
セキュリティ委員会
JAHIS/JIRA合同RSS-WG,
監査証跡WGリーダー
(株)島津製作所

にしだ しんいちろう
西田 慎一郎



医療システム部会・セキュリティ委員会・監査証跡WGのリーダーを務めさせていただいている(株)島津製作所の西田です。このたびは、第11期定時社員総会で表彰いただき誠にありがとうございます。

監査証跡WGでは、医療機関内で使用されている医療情報システムが適切に運用されており、システム内に保管されている患者の個人情報適切に扱われていることを第三者が検証可能にするための証拠となる監査証跡の標準化を進めております。活動の成果として、国際的な標準であるISO、DICOM、IHEと互換性をもった「ヘルスケア分野における監査証跡のメッセージ標準規約」を2006年12月に制定し、これまで4回にわたって改定を行ってまいりました。それとともに監査証跡の国際的な標準規約であるISO27789 Audit Trails for EHRの策定及び改定作業にも参画し、国際的な標準化作業に貢献させていただいております。これまでの作業にご協力いただいたWGメンバーの方々にはこの場をお借りして深く御礼を申し上げます。

ただ、JAHIS標準は策定したものの、この仕様に準拠した実装はまだまだ一般的に行われておりません。今後、監査WGでは標準メッセージ規約の普及活動に努めてまいりたいと思いますので、引き続きご指導をよろしくお願いいたします。

標準化推進部会
国際標準化委員会
国際エキスパート
(日本電気株)

だんばら かずゆき
檀原 一之



標準化推進部会の国際標準化委員会における活動で奨励賞を頂きました檀原です。今回、表彰いただきましたこと、誠にありがとうございます。関係者の皆様に感謝申し上げます。

主な活動は、HL7 Internationalが主催するWorking Group Meetingに参加し、国際標準化委員会で報告をしています。コロナ禍の現在は、ZOOMによるオンライン会議になっており、Whovaというイベントアプリで自分のスケジュールを管理しています。Meetingは、米国を中心に400～500名程度が参加しています。40以上のWorking Groupがあり、誰でもMeetingに参加することができ、主にPatient Administration、V2 Management Groupに参加しています。日本からの参加者は数名という状況ですが、HL7やFHIRの最新情報を入手できる場であり、東大の大江先生が主催のHL7FHIR日本実装検討WGで、JP CORE Profileを策定中で、そちらの活動にも参画しておりますので、今後も積極的に参加し、Meetingで得た知識を日本での作業に生かしていきたいと考えております。また、入手した情報は、HL7セミナー等でJAHIS会員の皆様に還元していきたいと考えております。

今後の活動につきましても、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

保健福祉システム部会
福祉システム委員会
保健衛生WG サブリーダー
(株)両備システムズ

すみ としゆき
角 敏幸



福祉システム委員会 保健衛生WGでお世話になっております角です。この度は2021年総会におきまして、表彰をいただき誠にありがとうございます。

今回表彰いただいたプロジェクトは未曾有の危機となっている新型コロナウイルスの猛威を抑えるためのワクチン接種に向けた全国標準仕様の接種券および予診票の作成に関する取り組みとなります。

取り組みにおいては、厚生労働省・国民健康保険中央会と度重なる協議の上、全国で使える接種券および予診票のデザインとデータ管理の仕様策定を短期間で実施しました。また、あわせて市町村の予防接種台帳システムの改修対応と内閣官房のワクチン接種記録システム(VRS)とのデータ連携における技術支援を行いました。

なお、今回は新規で開発されるワクチンの種類や接種回数などの情報を待ちながら対応せざるを得ない中において短期間での対応を求められましたが、関係機関の皆様からの厚いご支援により無事に仕様決定を行え、全国での大規模な接種に繋がっています。この場を借りてご支援、ご協力に厚く御礼を申し上げます。

今後も継続してワクチンの接種を求められると想定されますが、引き続き国策の一助となるよう取り組んで参りますので、ご支援のほど宜しくお願いいたします。

保健福祉システム部会
福祉システム委員会
保健衛生WG 委員
(日本コンピューター様)

なかやま ひで き
中山 秀喜



福祉システム委員会 保健衛生WGの中山です。

この度は2021年度総会におきまして表彰をいただき、誠にありがとうございます。

今回の表彰は国策として行われた「新型コロナウイルスワクチン対策」において、昨年度の風しん対策で構築した国保連合会を介した全国決済方式を応用した全国統一の接種券様式の策定や市町村予防接種システムからの出力仕様策定についてのものとなります。

まだ世にワクチンが登場する前からの仕様策定であったため、対象年齢、ワクチン種類や接種回数など不確定要素も多く、また、全国民が対象となり得るものの十分な供給量が流通するのさえも未定であり、接種順位や段階的な抽出發送などについてもある程度、想定で流動的に対応できるような仕様決定を実施することができました。

このように実現できましたことは、厚生労働省、国民健康保険中央会をはじめとする関係者皆様のご協力があったことだと大変感謝しております。

今後も、保健衛生分野でお役に立てますよう取り組んで参りますので、引き続きご支援、ご協力の程よろしく願いいたします。

事業推進部
日薬展示委員会 委員長
(三菱電機ITソリューションズ(株))

みやじま つよし
宮島 毅



事業推進部 日薬展示委員会の委員長を務めさせていただいております宮島です。この度は2021年度総会におきまして表彰をいただき、誠にありがとうございます。推薦いただきました皆様に感謝申し上げます。

日薬展示委員会は、毎年開催地の変わる日本薬剤師会学術大会におけるIT機器展示の取りまとめ役として、開催に向けた薬剤師会との折衝等、貴重な経験をさせて頂いております。昨年、札幌市で開催された日本薬剤師会学術大会併設IT機器展示においては、COVID-19禍により、感染症対策に重きを置いたハイブリッド方式での開催となりました。IT機器展示コーナーの各ブースは厳しい状況下での出展となりましたが、来場された方々の大変熱心な姿が見受けられ、本大会での展示運営につきまして大過なく終える事が出来ました。本年度開催される福岡県での学術大会においては、開催方式を「現地開催」と「WEB開催」のハイブリッド形式で実施される事になり、IT機器展示準備を進めてきましたが、COVID-19禍の影響により、開催1か月前にWEB配信のみによる「完全WEB開催」へ変更され、IT機器出展活動は中止となってしまいました。大変残念な結果となりましたが、来年度は仙台市での開催が予定されており、宮城県薬剤師会との折衝に向け準備を進めて参ります。

今後も微力ながらJAHIS活動に貢献して参りたいと思います。よろしくお願い致します。

事業推進部
日薬展示委員会 副委員長
(株)ユニケソフトウェアリサーチ)

やま だ たけし
山田 猛



事業推進部 日薬展示委員会の副委員長を務めさせて頂いております山田です。この度は2021年度総会におきまして表彰を頂き、誠にありがとうございます。

この場をお借りし、日薬展示委員会メンバー並びに事業推進部の皆さま、そしてJAHIS会員企業様におかれましては日頃より多大なるご協力、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

日本薬剤師会学術大会は、薬剤師の先生方が日頃の研究成果を学術発表やポスター等で発表されており、薬局勤務の薬剤師が集まる大会としては年間を通じて最大規模の大会であります。

その大会で併設して開催されるIT機器等の展示は、毎回ご出展頂いております企業様にとって、この大会が年に1度の新製品発表の場としてすっかり定着した感があります。加えてこの併設展示では毎回JAHISコーナーを通じ、JAHISの活動内容を紹介し、薬剤師の先生方への認知活動も行っております。

今後も本大会において、IT機器展示で盛んに花を添えられるようJAHIS活動に尽力して参ります。何卒宜しくお願い致します。

総務会
市場調査TFメンバー
(キヤノンメディカルシステムズ株)

きど す み こ
木戸 須美子



総務会 市場調査TFを担当しております木戸です。この度は2021年度総会におきまして表彰をいただき、誠にありがとうございます。

今回の表彰は、新規入会促進策として実施した市場調査に携わったTFメンバー、市場調査に協力とアドバイスを頂いた、各委員会の皆様に対して、評価頂いたものと考えております。

調査は保健医療福祉情報システムに関する事業に携わり、JAHIS未入会の1,000社をリストアップして、アンケートを実施することから開始しました。その中で、各企業の事業展開範囲の広さと、バリエーションの多さを改めて認識しました。このことは、JAHISに求められている事項も多様化していることの表れであり、事業を進めていく難しさを再認識することとなりました。

また、ITの発達により、様々な情報の入手が可能になると共に、人と人、企業と企業の繋がりが創出もハードルが下がってきている今、JAHIS入会のメリットをどのように作り出し、伝えていくかが課題であると考えています。

皆様には委員会活動の中で、また对外活動を通してJAHISのプレゼンス向上に尽力いただき、ありがとうございます。総務会・市場調査TFでは今後も継続して、新規入会促進策を実施してまいりますので、引き続きご支援、ご協力を頂けますよう、よろしくお願い申し上げます。

総務会
市場調査TFメンバー
(PHC株)

とくのう み の る
得能 稔



総務会でお世話になっておりますPHC株式会社の得能です。この度は2021年度総会にて、「新規会員候補を分析する為の市場調査活動」に対しまして功績賞をいただき、誠にありがとうございました。

実は私、昨年の6月に前任者と交代して総務会に参加させて頂くこととなり、2020年度6月会議より参加させて頂いております。そしてその最初の会議で、JAHIS会員を増やすための市場調査を行うグループで活動することになりました。

まさに右も左も分からないまま活動に参加し、なんとか調査活動の方針や進め方等を理解していく中で、漠然とではありますが、自分なりに課題やあるべき姿を把握出来ていったような気がします。

そして、僅かな内容ではありますが、私自身のこれまでの業務での経験を活かして、アプローチすべき企業に関する提言も行えたように感じております。

ただ、活動内容をご評価頂いておりながら、申し上げるのは心苦しいのですが、まだまだ真の成果には繋がっていないと感じております。これからも、しっかり成果（会員数の拡大）を上げるべく、こうした活動に積極的に参加して参りたいと存じます。

総務会

会員意識調査TFリーダー

(株NTTデータ)

しば けんいちろう
柴 健一郎

会員意識調査TFリーダーの柴です。この度は定時社員総会におきまして表彰いただき、誠にありがとうございました。

本TFでは、会員一人ひとりの声をお聞きし今後のJAHIS活動推進や事業計画策定に活用することを目的としてWebアンケート調査を実施しました。

調査は2021年2月にJAHISに登録している約3000名の会員全員を対象に実施しました。登録会員全員を対象とした大規模調査はJAHIS創立以来初の試みでしたが、結果429名の方から回答を得ることができました。

調査内容は、「①JAHISに参加していることの価値を何に感じているか（参加目的）」「②自社の事業にどのように寄与しているか（役立ち度/満足度）」「③JAHISへの今後の期待や要望は何か（強化して欲しい活動）」の観点を26の設問にして問いました。定量的な調査結果のみならず、自由回答による貴重なご意見も多数得ることができました。

今回TFメンバーは3名（+オブザーバー3名）という少人数構成でしたが、調査項目の検討から、調査実施、報告まとめまでメンバー全員の積極的な参画により成果物として59ページの調査結果報告書にとりまとめることができました。この報告書は既に運営会議を通じて各部会に展開しており、今後の部会運営に活用いただけるものと期待しております。

総務会

会員意識調査TFメンバー

(株日立製作所)

おおかわ よし と
大川 義人

総務会の副会長を務めさせていただいております、株式会社日立製作所の大川と申します。この度は、表彰をいただき、誠にありがとうございます。

私は、2020年6月より総務会に参加しておりますが、実働1年足らずで表彰を頂いたのも、総務会ならびに関係各位のご指導とご協力の賜物と感謝しております。

今回の表彰の対象となりました、「会員意識調査」は、過去にも実施したことがなく、初めての試みとなりました。調査活動は、調査の目的、設問から何を求めるか、設問の設定、構成などの検討を進め、さらには、回答者個人への配慮、年代、立場の違いによる偏り、コンプライアンス的な観点など、手探りに考えを巡らしながら進めてまいりました。

まだまだ、足りないことが多々あったことと思いますが、ぜひ本調査結果を参照していただき、JAHIS活動のさらなる飛躍の一考となれば幸いです。また、改善点があれば当TFにご指摘ください。

最後に、この1年間の活動を通じ、各部会の様々な活動や各方面への貢献について理解を深めることができました。今後も、その一員として微力ながらも貢献できるよう努めてまいります。引き続き、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

総務会
HP改善TFリーダー
(日本事務器㈱)

とくなが かつ や
徳永 勝哉



総務会 ホームページ改善TFのリーダーを務めさせていただいております日本事務器㈱徳永です。この度は2021年度総会にて、表彰の栄を賜り誠にありがとうございました。

総務会では、会員への有益情報提供と新規会員拡大に向け、ホームページ改善TFが立ち上がりました。会員・非会員に向け様々な情報発信や、より分かりやすいホームページの在り方を検討しています。ランディングページの要素も組み込みJAHISの情報発信基地としての役割を担えることを目標としています。毎月、人気のあるページランキングや新規訪問者の回遊状況、検索キーワード等を分析し改善を図っています。すでにお気づきの方もいらっしゃるかと存じますが、TOPページのデザインを少し変更しました。訪問者が欲しい情報になるべくスクロールすることなく、情報にアクセスできるように工夫しています。ヒートマップで確認すると、その効果は着実に表れているようです。JAHISのホームページには様々な情報が掲載されています。欲しい情報が、欲しい時に、欲しい人に届けられるよう、まだまだ改善が必要と考えています。

TFは、まだ緒に就いたばかりですが、会員の皆様に喜ばれ、さらに会員数向上に寄与することができるよう、今後も尽力する所存でございます。引き続きのご支援、ご協力何卒よろしくお願い申し上げます。

総務会
HP改善TFメンバー
(富士通Japan㈱)

さとう としひこ
佐藤 寿彦



総務会 HP改善タスクフォースでお世話になっております佐藤です。この度は2021年度総会におきまして、表彰をいただき誠にありがとうございます。

今回の表彰は、JAHISのWebサイトの改善についていただいたものでありますが、総務会を含め会員の皆様に多くのご意見／アドバイスをいただいた結果、評価いただけたものと考えております。深く感謝申し上げます。

Webサイトは会員の皆様の活動の成果を広く世間に伝えると共に、新規会員のお申し込みを促す重要な役割を持っています。今回は、サイトを訪れた方がJAHISのイメージをご理解いただき、必要な情報へ辿りつけるように、トップページのイメージ図、メッセージ、メニュー等を中心に改善しました。改善効果は、アクセス分析やTFでの検討会などおこない継続的にモニタリングしていきます。また、オンラインでのコミュニケーションの広がりを見据え、会員間や行政、その他企業とのインタラクティブな連携ができるようなSNSなどの機能の検討もしていきたいと考えております。

今後も会員の皆様含めてJAHISのWebサイトを活用される方により使いやすいサイトとして改善していく所存でございますので、引き続きご支援、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

運営状況報告

会誌第67号（2021年4月発行）から本誌発行までに開催された理事会・運営会議・総務会の会議内容について審議事項を中心にご紹介いたします。JAHISの活動方針が決まる経緯をご理解いただくとともに、戦略企画部の運営幹事を始めとするメンバーが、さまざまなJAHIS活動の重責を担っている様子を読み取っていただければ幸いです。

併せて、現在の会員数状況をご報告いたします。

■ 2021年度会員数状況（2021年9月1日現在）

会員種別	A	B	C	D	E	F	計
2021年4月1日現在	7	4	11	20	123	202	367
入会	0	0	1	0	0	4	5
退会	0	0	0	0	0	1	1
種別変更	0	0	-1	1	0	0	0
2021年9月1日現在	7	4	11	21	123	205	371

理事会

2021年度第1回定例理事会及び臨時理事会、並びに第91回～第93回の書面理事会が開催されました。それぞれの審議結果は次のとおりです。

2021年度第1回定例理事会

開催日時：2021年5月12日（水） 午前10時00分から午前10時40分まで

開催場所：JAHIS第1、第2会議室（東京都港区新橋2丁目5番5号）

出席：理事 11名（オンラインでの出席10名）、監事 2名（いずれもオンライン出席）

議案：第1号議案 2020年度事業報告の件

承認

第2号議案 2020年度収支決算報告及び監査報告の件

承認

第3号議案	2021年度事業計画の件	承認
第4号議案	2021年度収支予算の件	承認
第5号議案	役員選任・補欠役員選任の件	承認
第6号議案	定時社員総会招集の件	承認

2021年度 臨時理事会

開催日時：2021年6月8日（火） 午前11時45分から11時55分まで

開催場所：JAHIS第1、第2会議室（東京都港区新橋2丁目5番5号）

出席：理事 11名、監事 2名

議案：第1号議案 副会長選定の件 承認

第91回書面理事会（2021年4月12日開催）

第1号議案：入会承認の件 承認
(株)ベストライフ・プロモーション F会員 紹介 富士通(株)

第92回書面理事会（2021年6月17日開催）

第1号議案：入会承認の件 承認
Abstract合同会社 F会員 紹介 (株)システム開発

第93回書面理事会（2021年9月15日開催）

第1号議案：入会承認の件 承認
(株)やさしい手 D会員 紹介 (株)エスピック
三菱スペース・ソフトウェア(株) E会員 紹介 三菱電機(株)

運営会議状況報告

2020年度 第12回運営会議議事録

<日時>：2021年3月16日（火）15:00～17:35

<場所>：WEB会議

- (1) 2021年度事業計画案、予算計画案を暫定承認した。
- (2) 木村通男先生、澤智博先生、岡田美保子先生への2021年度国際標準化団体参加依頼およびその年間経費予算を承認した。
- (3) 東和ハイテック(株)殿にJAHISのWEBリンク許可、及びロゴデータを提供することを承認した。
- (4) 医事コンピュータ部会 石井副部会長の辞任と榎藤章彦氏の次期医事コンピュータ部会副会長候補への選出を承認した。

(5) 対外活動申請

- ①第69回 日本輸血細胞・治療学会学術総会でのサテライトセミナー「病院情報システム」へ、電子カルテ委員会 患者安全ガイド専門委員会 坂西専門委員長を派遣することが承認された。
- ②国民健康保険中央会「障害者総合支援事務処理システム検討会」へ、福祉システム委員会 金本委員長、林好治委員、福田佳孝委員、山下隆二委員、片上誠一委員、中山満弘委員、鴻谷則和委員、長尾竜一郎委員を派遣することが承認された。

(6) 西原栄太郎氏へ健康支援システム委員会特別委員を委嘱することが承認された。

2021度 第1回運営会議議事録

＜日時＞：2021年4月20日（火）15:00～17:35

＜場所＞：WEB会議

(1) 事業企画推進室室長を再公募することが承認された。

(2) 2021年度第1回定例理事会議案等が承認された。

(3) 対外活動申請

- ①厚生労働省「労災レセプトのオンライン化に向けた普及促進事業」における普及促進活動検証委員会へ、西山戦略企画部長と岡事務局部長を派遣することが承認された。
- ②医療機関間等の情報連携における基盤整備のための医療情報の標準規格策定に関する検討会へ、相互運用性委員会木村委員長と電子カルテ委員会井上委員長を派遣することが承認された。

(4) 奨励賞5名、功績賞（個人）5名、功績賞（連名）11名、功績賞（グループ）1グループ、および、幹部功労賞1名の表彰が承認された。

(5) 金本昭彦氏を福祉システム委員会委員長とすることが承認された。

(6) 定例理事会及び定時社員総会の開催方法が確認された。

2021度 第2回運営会議議事録

＜日時＞：2021年5月25日（火）15:00～17:15

＜場所＞：WEB会議

(1) 対外活動申請

- ①第25回日本医療情報学会春季学術大会（HELICSチュートリアル）へ、国内標準化委員会田中委員長を派遣することが承認された。
- ②口腔診査情報標準コード仕様メンテナンス委員会へ、歯科システム委員会佐藤副委員長と相互運用性委員会木村委員長を派遣することが承認された。
- ③第54回日本薬剤師会学術大会へ、調剤システム委員会竹中委員長を派遣することが承認された。
- ④厚生労働省／令和3年度リアルワールドデータ研究利活用基盤整備にかかる検討会へ、医療システム部会森田部会長を派遣することが承認された。

(2) 電子投票結果

- ①実務担当者による特定健診・特定保健指導に関するWGの委員交替について、2021/4/28付で電子投票にて承認されたことが報告された。

2021度 第3回運営会議議事録

＜日時＞：2021年6月15日（火）15:00～17:10

＜場所＞：WEB会議

- (1) 日本アイ・ビー・エム株式会社小林俊夫氏を次期事業企画推進室室長に選任し、2021/9/1より2022/3/31まで事業企画推進室副室長に、2022/4/1より2025/3/31まで事業企画推進室室長に就任することが承認された。あわせて、2021/9/1より2022/3/31までJAHISにて事業企画推進室副室長として雇用契約を締結することを承認し、2022/4/1より2025/3/31まで年度ごとに事業企画推進室室長として雇用契約を更新することを確認した。
- (2) 対外活動申請
 - ①厚労省医薬局 電子処方箋検討会議の構成員へ、事業企画推進室 吉村室長を派遣することが承認された。
 - ②日本福祉介護情報学会 第22回研究大会へ、介護システム委員会 畠山委員長を講師派遣することが承認された。
 - ③第54回日本薬剤師会学術大会ランチョンセミナーへ、事務局 岡部長を講師派遣することが承認された。
 - ④経済産業省／令和3年度政府戦略分野に係る国際標準開発活動 募戦19「保健医療福祉リアルワールドデータ活用促進のための国際標準化」ヘルス＆ケアのマネジメントにおけるプロセスとデータのモデル策定委員会へ、相互運用性委員会 木村委員長を派遣することが承認された。
 - ⑤日本福祉介護情報学会 第22回研究大会へ、福祉システム委員会 金本委員長を派遣することが承認された。
- (3) 標準化推進部会 小川副部会長の辞任と副島秀介氏の次期標準化推進部会副会長候補への選出が承認された。
- (4) 来年度JAHIS総会の開催会場についてCovid-19以前と同様に経団連会館ダイヤモンドホールで懇親会付きで開催することを前提として会場予約を進めることとした。Web配信については、簡易な運用を検討する。今年と同様に密を避ける必要が有る場合は、JAHIS 事務所で行う。最終判断は、キャンセル料が発生する前に行う。
- (5) 医療システム部会 森田部会長の辞任と桑原裕哉氏の次期医療システム部会部会長候補への選出が承認された。
- (6) 電子投票結果
 - ①MEJ 四次元医療改革研究会評議会 評議員派遣について、2021/6/2付で電子投票にて承認されたことが報告された。

2021度 第4回運営会議議事録

＜日時＞：2021年7月20日（火）15:00～17:12

＜場所＞：WEB会議

- (1) 第41回医療情報学連合大会におけるコンgresバックへのJAHISロゴ掲載を二口申し込むことが承認された。

(2) 対外活動申請

- ①第24回近畿薬剤師学術大会へ、事業企画推進室 吉村室長を派遣することが承認された。
- ②医機連「プログラム医療機器対応WG」及び「規制対応Sub-WG」へ、ヘルスソフトウェア対応委員会 中光委員を派遣することが承認された。
- ③DICOM WG26 国際会議へ、検査システム委員会 病理・臨床細胞部門システム専門委員会 DICOM WG芳賀委員を派遣することが承認された。

2021度 第5回運営会議議事録

＜日時＞：2021年8月17日（火）15:00～17:05

＜場所＞：WEB会議

- (1) 事務局ファイルサーバをAWSに移行することが承認された。
- (2) 総務会小林運営幹事の辞任と下山総務会長の運営幹事兼任が承認された。
- (3) 対外活動申請
 - ①広域連合標準システム研究会へ、福祉システム委員会 川崎委員、岩田委員、山田委員をオブザーバ派遣することが承認された。
 - ②国保事業費納付金等算定標準システム検討会（国保中央会）へ、福祉システム委員会 大村委員、岩田委員、長谷委員をオブザーバ派遣することが承認された。
 - ③国保情報集約・市町村事務処理標準システム検討会（国保中央会）へ、福祉システム委員会 大村委員、岩田委員、長谷委員をオブザーバ派遣することが承認された。

総務会

総務会の主な審議事項の要旨をご紹介します。協議事項・報告事項は割愛し、審議事項のみをご紹介します。

2021年3月

【日時】2021年3月23日（水）15:00～16:00

【場所】WebEXにて開催

【審議事項】

- (1) 2020年度総務会事業報告書について
 - ・小林運営幹事より2020年度総務会事業報告書の案につき、承認を求める審議依頼があった。
 - ・審議の結果、原案通り承認された。但し、同報告書案冒頭の会員数等各種数値は、2021年3月31日時点の実績を反映したものを最終版とする。
- (2) JAHIS規程5005号の修正について
 - ・小林運営幹事よりJAHIS規程5005号の修正につき、審議依頼があった。
 - ・修正提案の趣旨は、現行規程で表彰対象が委員会、専門委員会、WG等の「委員」に限定されて

いるが、表彰の趣旨は本来「JAHISの活動に優れて寄与した」ことに対する感謝であることから、この制限を緩和してはどうか、という提案である。

- ・ 審議の結果、「JAHIS活動に貢献のある会員は、委員以外も含めて表彰対象とする」こととなり、具体的な修正文案については、後日メールにて審議することで承認された。

(3) 総務会からの功績賞推薦について

- ・ 小林運営幹事より、2020年度功績賞の総務会からの推薦者を選出する旨の審議依頼があった。
- ・ 審議の結果、3つのTFのメンバー（下山総務会長、小林運営幹事及び事務局員は除く）全員を推薦することが承認された。

(4) JAHIS事務所のWiFi機器更新について

- ・ 谷口部長より既設WiFiルータの交換、発注先及び支出の承認を求める審議依頼があった。
- ・ 審議の結果、交換、発注先及び支出について原案通り承認された。
- ・ 他方、通信の安定性を担保する観点から、事業所会議室の全てに「有線LANのポートを設置」する要望があり、来年度、これを検討することが併せて承認された。

2021年4月

【日時】2021年4月21日（水）15:00～16:50

【場所】WebEXにて開催

【審議事項】

(1) 介護マスタ利用者ライセンス報告データ（J2ファイル）作成ツールの改修について

- ・ 岡部長より、医事コンピュータ部会の事業に係るシステム（介護マスタ利用者ライセンス報告データ（J2ファイル）作成）の改修にかかる支出に関する審議依頼があった。
- ・ 同改修はJAHIS会員の介護マスタ利用者が国保中央会に提出するファイルで扱うことのできる文字コードを拡張するものであり、開発元のNTTデータ中国に発注したいとのこと。
- ・ 審議の結果、原案通り承認された。尚、当該開発の支出は事務局費用とすることも併せて承認された。

(2) 総務会委員交代について

- ・ 中野委員より本日を以て自身が辞任、後任に武井光明氏を推薦したいとの申し出があり、審議を行った。
- ・ 審議の結果、申し出どおり承認された。
- ・ 尚、この交代について5月の戦略企画部会議及び運営会議にて報告することとなった。

2021年5月

【日時】2021年5月18日（火）15:00～16:10

【場所】WebEXにて開催

【審議事項】

（1）HP改善TF継続への支出承認について

- ・小林運営幹事より、HP改善TFチームによるHP改修の継続的活動につき、総務会2021年度一時金からの支出及び発注方法の承認に関する審議依頼があった。
- ・審議の結果、以下を条件に承認された。

⇒HP改善の内容はTFにて検討することとし、検討に必要なHP動態測定やデータ提供は日本事務器(株)様が行う。

⇒支出総額はHP改善TF用一時金（150万円）を上限とする。

⇒改善作業を一定期間積み上げたのち、累積で掛かった費用（実費）の見積額を総務会に報告し、この見積に基づき「注文書交付→請求→支払い」の手順にて支出する。

⇒上記の改善作業は1回につき数万円規模を想定するが、これを大きく超えることが見込まれる場合は、事前に総務会に諮る。

2021年6月

【日時】2021年6月18日（火）13:00～15:05

【場所】WebEXにて開催

【審議事項】

（1）エクセル・クリエイツ様からのHPリンク申請について

- ・谷口部長より、5月31日に(株)エクセル・クリエイツ様から申請があった「JAHIS HPへのリンク及びJAHISロゴを自社HPに掲載する件」の承認に関する審議依頼があった。
- ・審議の結果、申請どおり承認された。
- ・尚、同社HP経由でのJAHIS HPのアクセスログを取るため、HP改善TFの徳永リーダにて必要な措置を講じたURLを生成いただき、同社への案内は本URLを以て行うこととなった。

2021年7月

【日時】2021年7月13日（火）15:00～17:10

【場所】WebEXにて開催

【審議事項】

（1）JAHIS規則5005号（表彰規程）の改定について

- ・小林運営幹事より、6月13日の総務会で検討した「JAHIS規程5005号の改定」に関して、7月6日の戦略企画部会議で提示されたコメントを反映した総務会案を再度検討したい、との審議依頼があった。
- ・審議の結果、「グループ表彰の記念品は、グループ全員に対して授与する」との考え方を採るこ

とし、併せて「総会での表彰には、個人での表彰者に加え、グループは代表者のみが参加する」ことを確認、これらを反映した規定の原案が承認された。具体的には「第6条（4項）グループ表彰の場合は受賞者全員分の表彰状とグループに対する記念品を代表者に授与する」と改定することが承認された。

- ・「JAHIS規程の決裁プロセスについて」に則り、上記改定案を8月の戦略企画部会議に上程し、異論が出なかった場合には本日に遡って制定することとなった

2021年8月

【日時】2021年8月4日（水）15:00～17:10

【場所】WebEXにて開催

【審議事項】

（1）JAHIS規則7001号の改定（バックパネル画像利用規定）について

- ・7月総務会にて「JAHIS規則7001号（工業会アイデンティティ要素 取り扱いマニュアル）」に追記することとなった「オンライン会議の背景用に作成した画像（バックパネル画像）の利用に関する規定」につき審議した。
- ・JAHIS内のオンライン会議及びJAHISの立場で参加する外部とのオンライン会議では、当該バックパネル以外の使用（例：自社の画像や任意の画像）は控えるべき、との観点から原案を見直し、「特段の理由がない限り」当該バックパネル画像を使用する旨を明記することとなった。
- ・バックパネル画像利用に関する規定は同画像を掲載するHP上の同じ場所に掲載することとし、規定の遵守を周知することとした。
- ・尚、上記規程の各項にある「制定日」は本改訂の施行日に統一し、各項の「制定日」は削除することとなった。
- ・審議で出たコメントを反映した原案を事務局にて作成し、メール審議に付すこととなった。
- ・メール審議を経た原案は「JAHIS規程の決裁プロセスについて」に則り9月の戦略企画部会議に上程し、異論が出なかった場合には本日に遡って制定することとなった。
- ・JAHIS会議室にある「バックパネル（施工物）」の利用については、特段の規程は設けず「事情に即して運用面に対応」することとなった。

（2）JAHIS規則5005号（表彰規程）の改定について

- ・7月総務会にて検討したJAHIS規則5005号（表彰規程）改定案につき、同文案に対して戦略企画部会議で出たコメントを反映して更に検討を加えた。
- ・審議の結果、コメントがあった「第6条4項」を「グループ表彰の場合は表彰状（全員分）とグループに対する記念品（1個）を代表者に授与する。」とすることが承認された。
- ・「JAHIS規程の決裁プロセスについて」に則り、上記改定案を9月の戦略企画部会議に上程し、異論が出なかった場合には本日に遡って制定することとなった。

（3）オンラインによる懇親会の開催条件について

- ・オンライン懇親会の飲食物配送先の指定に関して、従来の「参加者個人による入力」に加えて

「事務局部長が入手・集約して入力」も認める改定につき審議した。

- ・ 個人情報の入力是非や（個人情報取扱管理規程上の）事務局部長の負担等に鑑みて、本総務会での結論は見送ることとなった。
- ・ 当面は現行の「参加者個人による入力」での運用を継続し、飲食物発注先の多様化に関する要望が強まるようであれば、改めて事務局部長による集約も検討することとなった。
- ・ 尚、本日の資料にあった「ブレイクアウトセッション」の開催については、戦略企画部会議や運営会議で紹介済か否かを小林運営幹事にて確認することとなった。

2021年9月

【日時】 2021年9月14日（火）15:00～17:10

【場所】 WebEXにて開催

【審議事項】

(1) JAHIS对外活動に関する申請／承認書（岩崎学園）について

- ・ 真野事務局長宛に届いた「学校法人 岩崎学園 横浜医療情報専門学校『学校関係者評価委員ならびに教育課程編成委員』の派遣」の依頼につき審議した。
- ・ 本件は9月7日の戦略企画部会議の協議事項として提起したが、事務局の担当部門である総務会から改めての審議依頼を求められたもの。
- ・ 審議の結果、原案どおり承認され、9月21日の運営会議の審議事項として提起することとなった。

(2) JAHIS規則7001号の改定（バックパネル画像利用規定）について

- ・ 8月総務会にて審議したJAHIS規則5005号（表彰規程）改定案につき、9月7日の戦略企画部会議での指摘事項を踏まえ、更に修正を加えた文案を審議した。
- ・ 当該指摘事項には (a)「JAHIS内のオンライン会議」には適用しなくても良いのではないか、(b)「JAHISとして参加する会議に相応しくない背景は使わない」を前提とする、(c)「対外的にJAHISを代表」し、かつ「背景を利用する場合には」を加える（背景画像を使わないことも多いため）、(d)「背景を使う場合は原則これを使う」とするのが良い、(e) JAHISからの参加者が多く、相手に圧迫感を与える場合は利用を控えることも必要、(f) オンライン懇親会での利用も認めるのはどうか、等があった。
- ・ 審議の結果、以下の修正案が了承された。「(Ⅶ. オンライン会議時のバックパネル画像利用) JAHISの立場で外部組織・団体等とのオンライン会議等に参加し、会議にて背景画像を利用する際は、ビジネス上の品位を保つとともに、JAHISのアイデンティティを尊重する観点から、特段の理由がない限りJAHIS指定のバックパネル画像を（別紙4）の記載に従って利用する。但し、利用に当たっては会議等の形態や相手組織・団体等の参加状況等にも配慮し、相応しくないと判断する場合はこの限りではない。」
- ・ 尚、同規程の「別紙4」も、本修正案に整合するように改定することとなった。
- ・ 「JAHIS規程の決裁プロセスについて」に則り、上記改定案を10月の戦略企画部会議に上程し、異論が出なかった場合には本日に遡って制定することとなった。

委員派遣ならびに協賛・後援（2021年3月～2021年8月承認分）

【委員派遣】（役職はいずれも運営会議での承認当時）

1 一般社団法人 日本輸血・細胞治療学会

「第69回日本輸血細胞・治療学会学術総会でのサテライトセミナー『病院情報システム』」 演者
（ライブ配信：2021年6月4日（金）～6日（日）、オンデマンド配信：6月下旬～1ヶ月）

患者安全ガイド専門委員会 専門委員長 坂西 裕

2. 国民健康保険中央会 「障害者総合支援事務処理システム検討会」 委員

（2021年4月1日（木）～2023年3月31日（金））

福祉システム委員会	委員長	金本 昭彦
	委員	林 好治
	委員	福田 佳孝
	委員	山下 隆二
	委員	片上 誠一
	委員	中山 満弘
	委員	鴻谷 則和
	委員	長尾 竜一郎

3. 厚生労働省「『労災レセプトのオンライン化に向けた普及促進事業』における

普及促進活動検証委員会」 委員

（2021年4月～2022年3月（原則毎月1回の開催、最大12回を予定））

戦略企画部	部長	西山 喜重
医事コンピュータ部会事務局	部長	岡 明男

4. 国立研究開発法人 国立がん研究センター

「医療機関間等の情報連携における基盤整備のための医療情報の標準規格策定に関する検討会」 委員
（2021年度に2回予定（第1回は2021年内、第2回は2022年2～3月頃））

相互運用性委員会	委員長	木村 雅彦
電子カルテ委員会	委員長	井上 貴宏

5. 厚生労働省「実務担当者による特定健診・特定保健指導に関するWG」 委員（交替）

（2021年5月25日（火）～期間未定）

健康支援システム委員会		
健康情報技術WG	リーダー	濱島 健一

5. 一般社団法人 日本医療情報学会
「第25回日本医療情報学会春季学術大会（HELICSチュートリアル）」 演者
(2021年6月10日（木）)
国内標準化委員会 委員長 田中 利夫
6. 一般財団法人医療情報システム開発センター
「口腔診査情報標準コード仕様メンテナンス委員会」 委員
(2021年5月25日（火）～2022年3月31日（木）（3回の会議開催を予定）)
歯科システム委員会 副委員長 佐藤 孝昭
相互運用性委員会 委員長 木村 雅彦
7. 公益社団法人福岡県薬剤師会「第54回日本薬剤師会学術大会」 講師
(2021年9月19日（日）)
調剤システム委員会 委員長 竹中 裕三
8. 厚生労働省／令和3年度リアルワールドデータ研究利活用基盤整備にかかる検討会」 委員
(2021年5月25日（火）～2022年3月31日（5回開催）)
医療システム部会 部会長 森田 嘉昭
9. 一般社団法人 Medical Excellence JAPAN「四次元医療改革研究会評議会」 評議員
(2021年6月～2年間（期間中の評議会は2回の予定）)
会長 瀧口 登志夫
10. 厚生労働省「オンライン資格確認の基盤を活用した電子処方箋検討会議」 構成員
(2021年6月（任命した日）～2年間)
事業企画推進室 室長 吉村 仁
12. PHC株式会社「第54回日本薬剤師会学術大会ランチョンセミナー」 講師
(2021年9月19日（日）)
医事コンピュータ部会事務局部長 岡 明男
13. 一般社団法人 兵庫県薬剤師会「第24回近畿薬剤師学術大会」 演者
(2021/10/31（日）)
事業企画推進室 室長 吉村 仁

【協賛・後援】

1. 公益財団法人日本生体医工学会
第26回第1種ME技術実力検定試験および講習会（協賛）
2021年5月17日（月）～2021年6月19日（土）
2. 一般社団法人日本医用画像工学会
第40回日本医用画像工学会大会（後援）
2021年10月13日（水）～2021年10月15日（金）
3. 公益財団法人日本医業経営コンサルタント協会
第25回日本医業経営コンサルタント学会福島大会（後援）
2021年10月7日（木）～2021年10月8日（金）
4. 一般社団法人日本能率協会HOSPEX Japan
HOSPEX Japan2021（協賛）
2021年11月24日（水）～2021年11月26日（金）
5. 一般社団法人ASP・SaaS・AI・IoT クラウド産業協会
ASPIC IoT・AI・クラウドアワード2021（後援）
6. 医療と介護の総合展
医療と介護の総合展（通称：メディカルジャパン）（後援）
東京：2021年10月13日（水）～2021年10月15日（金）
大阪：2022年2月24日（木）～2022年2月26日（土）
7. 国立研究開発法人産業技術総合研究所
医療機器等ガイドライン活用セミナー（後援）
2021年10月1日（金）
8. 一般社団法人日本医療福祉設備協会
第50回日本医療福祉設備学会（後援）
2021年11月25日（木）～2021年11月26日（金）

会員連絡窓口、全役職者及び全員宛てメール (2021年3月4日～2021年9月13日)

通知番号	宛先対象	タイトル	発行日
317	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】新型コロナウイルス感染症対策に関する緊急事態宣言等に関する周知のお願い」の周知依頼	2021年9月13日
316	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】出勤者数の削減（テレワーク等の徹底）に関するお願い」の周知依頼	2021年9月13日
315	医療システム部会	HPKIを用いたJSON形式の電子署名（規格）を追加した「JAHIS標準の改版作業グループ」新規メンバー募集の件	2021年9月10日
314	全員	(再) 第78回HL7セミナーのご案内	2021年9月10日
313	会員連絡窓口、全役職者	医療安全情報等の共有（2021年No. 9）について	2021年9月9日
312	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】経産省企画JETRO主催サプライチェーン強靱化フォーラムの周知案内について」の周知依頼	2021年9月9日
311	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供「T582」の送付について	2021年9月9日
310	全員	【受講募集】JAHIS教育コース「医療情報システム入門コース」オンライン開催【2回目】のご案内	2021年9月13日
309	全員	【受講募集（会員限定）】「JAHIS勉強会」（日本の行政動向）開催のご案内	2021年9月13日
308	全員	【お知らせ】GHS活動に関するアンケート調査のお願い	2021年9月8日
307	全員	(再) オンラインセミナー募集のお知らせ【中国よりライブ配信】※医療情報技師ポイント対象	2021年9月7日
306	全員	メディカル ジャパン2021@東京 セミナー参加登録のご案内	2021年9月6日
305	全員	【会員限定】「JAHIS勉強会」（日本の行政動向）開催のご案内	2021年9月6日
304	全員	JAHIS教育コース「医療情報システム入門コース」オンライン開催【2回目】のご案内	2021年9月6日
303	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供「T581」の送付について	2021年9月2日
302	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】【公募案内】小規模事業者のポストコロナに向けたチャレンジと感染防止対策を支援（持続化補助金）の周知依頼	2021年9月2日
301	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知】9月価格交渉促進月間について」の周知依頼	2021年9月2日
300	全員	【会員限定】「JAHIS勉強会」（日本の行政動向）開催のご案内	2021年8月30日
299	全員	オンラインセミナー募集のお知らせ【中国よりライブ配信】	2021年8月31日
298	全員	JAHIS教育コース「医療情報システム入門コース」オンライン開催【2回目】のご案内	2021年8月30日
297	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】出勤者数の削減（テレワーク等の徹底）に関するお願い」の周知依頼	2021年8月26日
296	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供「T579」の送付について	2021年8月26日
295	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】新型コロナウイルス感染症対策に関する緊急事態宣言等に関する周知のお願い」の周知依頼	2021年8月26日
294	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供「T578」の送付について	2021年8月25日
293	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第292号	2021年8月24日
292	全員	(再) JAHIS教育「介護請求システム入門コース」（オンライン開催）のご案内	2021年8月25日
291	全員	【会員限定】「JAHIS勉強会」（日本の行政動向）開催のご案内	2021年8月23日
290	全員	JAHIS教育「介護請求システム入門コース」（オンライン開催）のご案内	2021年8月23日
289	全員	第78回HL7セミナーのご案内	2021年8月25日
288	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】厚労省より「【NISCから注意喚起（再送）】ブラックベリーQNXリアルタイムオペレーティングシステムの脆弱性の公表についてのお知らせ」の周知依頼について	2021年8月20日
287	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】厚労省より「【NISCから注意喚起】ブラックベリーQNXリアルタイムオペレーティングシステムの脆弱性の公表についてのお知らせ」の周知依頼について	2021年8月20日
286	全員	【再】JAHIS教育「介護請求システム入門コース」（オンライン開催）のご案内	2021年8月20日
285	全員	【再】JAHIS教育「介護請求システム入門コース」（オンライン開催）のご案内	2021年8月19日
284	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供「T572」の送付について	2021年8月18日
283	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】JIRAから「IMDRF/DITTA Joint Workshop 及びIMDRF Stakeholder Forumのご案内」の周知依頼	2021年8月18日

会員メール

通知 番号	宛先対象	タイトル	発行日
282	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供「T577」の送付について	2021年8月18日
281	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】新型コロナウイルス感染症対策に関する緊急事態宣言等に関する周知のお願い」の周知依頼	2021年8月18日
280	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】出勤者数の削減（テレワーク等の徹底）に関するお願い」の周知依頼	2021年8月18日
279	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】第31回日本医学会総会第2回展示オンライン説明会のご案内	2021年8月16日
278	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供「T576」の送付について	2021年8月16日
277	全員	JAHIS教育「介護請求システム入門コース」（オンライン開催）のご案内	2021年8月16日
276	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供「T575」の送付について	2021年8月16日
275	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第291号	2021年8月16日
274	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】水際強化に係る新たな措置について 8/11」の周知依頼	2021年8月16日
273	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】職場における積極的な検査等の実施手順（第2版）の改正（Q & Aの追加）に関する周知のお願い」の周知依頼	2021年8月16日
272	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】出勤者数の削減（テレワーク等の徹底）に関するお願い」の周知依頼	2021年8月16日
271	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供「T574」の送付について	2021年8月16日
270	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供「T573」の送付について	2021年8月16日
269	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】新型コロナウイルス感染症対策に関する緊急事態宣言等に関する周知のお願い」の周知依頼	2021年8月16日
268	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【訂正】水際強化に係る新たな措置について 8/2」の周知依頼	2021年8月16日
267	全員	JAHIS教育「介護請求システム入門コース」（オンライン開催）のご案内	2021年8月9日
266	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】令和3年度情報化促進貢献個人等表彰について（募集期間延長しました）」の周知依頼	2021年8月5日
265	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】水際強化に係る新たな措置について 8/2」の周知依頼	2021年8月3日
264	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】出勤者数の削減（テレワーク等の徹底）に関するお願い」の周知依頼	2021年8月3日
263	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】新型コロナウイルス感染症対策に関する緊急事態宣言等に関する周知のお願い」の周知依頼	2021年8月3日
262	全員	（再）JAHIS教育「介護請求システム入門コース」（オンライン開催）のご案内	2021年8月9日
261	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】飲酒運転の防止に向けた事業者への周知について」の周知依頼	2021年7月29日
260	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第290号	2021年7月28日
259	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】企業版ふるさと納税（内閣府）に関する周知のお願いについて（令和3年度第2回マッチング会）」の周知依頼	2021年7月27日
258	全員	「JAHIS会員意識調査」調査結果報告書の公開について	2021年7月26日
257	全員	再）JAHIS教育「介護請求システム入門コース」（オンライン開催）のご案内	2021年8月2日
256	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供「T571」の送付について	2021年7月26日
255	全員	再）JAHIS教育「介護請求システム入門コース」（オンライン開催）のご案内	2021年7月26日
254	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】厚労省より「【ご案内】医師の働き方改革や医療機関の勤務環境改善に関心のある企業の皆様に向けた医師の働き方改革セミナー」の周知依頼について	2021年7月21日
253	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供「T570」の送付について	2021年7月21日
252	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】海外渡航用新型コロナワクチン接種証明書について」の周知依頼	2021年7月21日
251	全員	再）【ご連絡】国際モダンホスピタルショウ2021	2021年7月26日
250	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】海外在留邦人等の日本でのワクチン接種について」の周知依頼	2021年7月30日

通知番号	宛先対象	タイトル	発行日
249	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】夏休み期間中における留意事項に関するお願い」の周知依頼	2021年7月19日
248	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供「T566-5」の送付について	2021年7月19日
247	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供「T568」の送付について	2021年7月19日
246	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】厚労省より「(周知依頼) 職場における新型コロナウイルス感染症対策に係る労使への協力依頼」の周知依頼について	2021年7月19日
245	全員	【ご連絡】国際モダンホスピタルショウ2021	2021年7月21日
244	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会期間中の物流に係るご協力をお願い」の周知依頼	2021年7月16日
243	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】職場における新型コロナウイルス感染症対策の徹底について」の周知依頼	2021年7月16日
242	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】経産省から「(周知依頼)「テレワーク・デイズ2021」の参加を通じたテレワーク導入へのご協力をお願い」の周知依頼	2021年7月16日
241	全員	JAHIS教育「介護請求システム入門コース」(オンライン開催)のご案内	2021年7月19日
240	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】水際強化に係る新たな措置について 7/15」の周知依頼	2021年7月15日
239	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供「T567」の送付について	2021年7月15日
238	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】経産省から「【展開依頼】再エネ価値取引市場 需要家アンケートについて」の周知依頼	2021年7月15日
237	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第289号	2021年7月13日
236	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】職場における積極的な検査等の実施について(報告依頼)」の周知依頼	2021年7月12日
235	全員	【ご連絡】国際モダンホスピタルショウ2021	2021年7月14日
234	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】出勤者数の削減(テレワーク等の徹底)に関するお願い」の周知依頼	2021年7月12日
233	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】新型コロナウイルス感染症対策に関する緊急事態宣言等に関する周知のお願い」の周知依頼	2021年7月12日
232	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供「T566-4」の送付について	2021年7月12日
231	全員	【お知らせ】IPA SC3事務局からのお知らせ「7月20日(火)開催 企業のプライバシーガバナンスセミナー(経済産業省・総務省・JIPDEC共催)のご案内」の周知依頼	2021年7月12日
230	全員	緊急事態宣言への対応について	2021年7月12日
229	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】水際強化に係る新たな措置について 7/6」の周知依頼	2021年7月8日
228	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供「T566-3」の送付について	2021年7月8日
227	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】IPA SC3事務局からのお知らせ「【重要】東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた注意喚起(SC3会長メッセージ)」の周知依頼	2021年7月7日
226	全員	【GHSメルマガ】「第3回ヘルスソフトウェアのリスク分析入門オンラインセミナー」開催のご案内	2021年7月6日
225	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】令和三年度情報化促進貢献個人等表彰の候補者推薦について」の周知依頼	2021年7月6日
224	全員	【ご連絡】書籍『医療情報システム入門2020』優待販売キャンペーンのご案内(期間限定)	2021年7月5日
223	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】厚労省より「(周知依頼)夏季の省エネルギーの取組について」の周知依頼について	2021年7月5日
222	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供「T566-2」の送付について	2021年7月5日
221	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供「T566」の送付について	2021年7月5日
220	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】厚労省より「(周知依頼)熱中症予防の普及啓発・注意喚起について」の周知依頼について	2021年7月5日
219	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】水際強化に係る新たな措置について6/28」の周知依頼	2021年6月29日
218	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】職場における積極的な検査等の実施手順(第2版)に関する周知のお願い」の周知依頼	2021年6月29日
217	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】厚労省より「【お知らせ】医療機関を標的としたランサムウェアによるサイバー攻撃について(注意喚起)」の周知依頼について	2021年6月29日

会員メール

通知 番号	宛先対象	タイトル	発行日
216	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【依頼】マイナンバーカードの健康保険証利用の促進及び業界団体・個社の取組の好事例の情報提供について」の依頼	2021年6月29日
215	全員	(再) J A H I S 教育コース「医療情報システム入門コース」オンライン開催のご案内	2021年6月28日
214	全員	(再) J A H I S 教育コース「医療情報システム入門コース」オンライン開催のご案内	2021年6月24日
213	保健福祉システム 部会、 医事コンピュータ 部会	『日本福祉介護情報学会 第22回研究大会』開催のお知らせ	2021年6月23日
212	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供「T565」の送付について	2021年6月23日
211	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第288号	2021年6月23日
210	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】水際措置の強化・変更について（キルギス、ポルトガル、米国の一部等）6／21」の周知依頼	2021年6月22日
209	全員	緊急事態宣言解除への対応について	2021年6月21日
208	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】新型コロナウイルス感染症対策に関する緊急事態宣言等に関する周知のお願い」の周知依頼	2021年6月18日
207	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】出勤者数の削減（テレワーク等の徹底）に関するお願い」の周知依頼	2021年6月18日
206	全員	【お知らせ】「ホスピタルショウオンライン」へのご参加、視聴等について（お願い）	2021年6月18日
204	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）に関する周知について」の周知依頼	2021年6月16日
203	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】オフィス、コールセンター、製造工場等における積極的な検査等の実施のお願い」の周知依頼	2021年6月16日
202	全員	(再) J A H I S 教育コース「医療情報システム入門コース」オンライン開催のご案内	2021年6月21日
201	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】新たな水際措置について（エジプト、ベルギー、ラトビア、米国の一部の州等）6／11」の周知依頼	2021年6月14日
200	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】厚労省より「介護ロボット開発に関する「ニーズ・シーズ マッチング支援事業」の周知のお願い」の周知依頼について	2021年6月14日
199	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供「T564」の送付について	2021年6月11日
198	全員	(再) J A H I S 教育コース「医療情報システム入門コース」オンライン開催のご案内	2021年6月14日
197	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第287号	2021年6月9日
196	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】職場における積極的な検査等の実施手順」の周知依頼	2021年6月7日
195	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】新たな水際措置について（英国）6／4」の周知依頼	2021年6月7日
194	全員	(再) J A H I S オンラインセミナー「セキュリティ関連セミナー」のご案内	2021年6月7日
193	全員	【お知らせ】教育「医療情報システム入門コース」（オンライン開催）のご案内	2021年6月7日
192	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】「夏季の省エネルギーの取組について」の周知依頼	2021年6月2日
191	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】「男女共同参画週間」の周知依頼	2021年6月2日
190	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】新たな水際措置について（アフガニスタン、ベトナム、マレーシア、タイ、米国の一部の州及びドイツ等）6／1」の周知依頼	2021年6月2日
189	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の延長を受けた基本的対処方針の着実な実施のお願い」の周知依頼	2021年5月31日
188	全員	(再) J A H I S 教育コース「医療情報システム入門コース」オンライン開催のご案内	2021年5月31日
187	全員	(再) J A H I S オンラインセミナー「セキュリティ関連セミナー」のご案内	2021年5月31日
186	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供「T561」の送付について	2021年5月26日
185	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第286号	2021年5月26日
184	会員連絡窓口	【再送・委任状ご依頼】第11期定時社員総会開催のご案内	2021年5月26日
183	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】新たな水際措置について（英国・カザフスタン・チュニジア・インド等）」の周知依頼	2021年5月25日
182	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供「T560」の送付について	2021年5月24日

通知 番号	宛先対象	タイトル	発行日
181	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置等を受けた基本的 対処方針の着実な実施のお願い」の周知依頼	2021年5月24日
180	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】新型コロナウイルス水際対策強化に係る新たな措置（イン ドで初めて確認された変異株への対応）」の周知依頼	2021年5月24日
179	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】スリランカからの入国者に対する防疫措置の強化」の周知 依頼	2021年5月21日
178	会員連絡窓口	第11期定時社員総会開催のご案内（資料のPDFご送付）	2021年5月20日
177	会員連絡窓口	【お詫び・補足】総会委任状の返信先情報	2021年5月19日
176	全員	（再）JAHIS教育コース「医療情報システム入門コース」オンライン開催のご案内	2021年5月24日
175	全員	（再）JAHISオンラインセミナー「セキュリティ関連セミナー」のご案内	2021年5月24日
174	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】厚労省より「【周知依頼】2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に 伴う警備協力について」の周知依頼について	2021年5月19日
173	医事コン ピュータ部会	「JAHIS会員向けオンライン説明会 ～返戻再請求のオンライン化～」開催のご案内	2021年5月18日
172	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】ASPICより「ASPIC IoT・AI・クラウドアワード2021」の周知 依頼について	2021年5月17日
171	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置等を受けた基本的 対処方針の着実な実施のお願い」の周知依頼	2021年5月17日
170	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】厚労省より「（周知依頼） 職場における新型コロナウイルス感染症への感染予防、 健康管理について」の周知依頼について	2021年5月14日
169	会員連絡窓口、 全役職者	医療安全情報等の共有（2021年No. 7）について	2021年5月14日
168	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】インド、パキスタン、ネパールからの入国者に対する防疫 措置の強化について」の周知依頼	2021年5月14日
167	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】新型コロナウイルス変異株流行国・地域への新たな指定に ついて5/12（ネパール）」の周知依頼	2021年5月14日
166	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】出勤者数の削減に関する実施状況の公表について」の周知 依頼	2021年5月13日
165	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供「T558」の送付について	2021年5月13日
164	全員	（再）JAHISオンラインセミナー「セキュリティ関連セミナー」のご案内	2021年5月17日
163	全員	（再）JAHIS教育コース「医療情報システム入門コース」オンライン開催のご案内	2021年5月17日
162	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第285号	2021年5月12日
161	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】インド、パキスタン、ネパールからの入国者に対する防疫 措置の強化、短期渡航の中止要請」の周知依頼	2021年5月12日
160	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置等を受けた基本的 対処方針の着実な実施のお願い」の周知依頼	2021年5月12日
159	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供「T557」の送付について	2021年5月12日
158	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】「2020TDM推進プロジェクト」に係るリーフレッ トにしまして」の周知依頼	2021年5月12日
157	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会より「オンライン研究会開催のお 知らせ」	2021年5月12日
156	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】「DMEA 2021 医療IT専門見本市・会議オンライン開催」の周知依頼に ついて	2021年5月12日
155	全員	第77回HLL7セミナーのご案内	2021年5月10日
154	会員連絡窓口、 全役職者	医療安全情報等の共有（2021年No. 6）について	2021年5月10日
153	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供「T556」の送付について	2021年5月10日
151	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供「T555」の送付について	2021年5月7日
150	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】Medical Excellence JAPANより「【依頼】令和3年度ヘル スケア産業国際展開推進事業 公募周知のお願い」の周知依頼	2021年5月7日
149	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】厚労省より「（周知依頼） 終電時間の繰上げや減便等について」の周知依頼について	2021年5月6日
148	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】厚労省より「【周知依頼】新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の発出等に伴う 周知依頼」の周知依頼について	2021年5月6日

会員メール

通知番号	宛先対象	タイトル	発行日
147	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】厚労省より「【周知依頼】職場における新型コロナウイルス感染症への感染予防、健康管理について」の周知依頼について	2021年5月6日
146	全員	(再) J A H I S オンラインセミナー「セキュリティ関連セミナー」のご案内	2021年5月10日
145	全員	(再) J A H I S 教育コース「医療情報システム入門コース」オンライン開催のご案内	2021年5月10日
144	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】N I S Cからの情報提供「T 5 5 4」の送付について	2021年5月6日
143	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】緊急事態宣言の発出を踏まえた職場における新型コロナウイルス感染症への感染予防及び健康管理について」の周知依頼	2021年5月6日
142	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】特定都道府県及び重点措置区域以外の地域における催物の開催制限等に係る留意事項について」の周知依頼	2021年5月6日
141	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】N I S C重要インフラニュースレター第284号	2021年4月27日
140	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】N I S Cからの情報提供「T 5 5 3」の送付について	2021年4月27日
139	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】「ビジネスと人権」に関する行動計画の業界団体への周知について」の周知依頼	2021年4月27日
138	会員連絡窓口、全役職者	医療安全情報等の共有（2021年No. 4、2021年No. 5）について	2021年4月27日
137	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】医療経済研究機構からの「令和3年度 調査研究報告会（6月15日オンライン開催）について」の周知依頼について	2021年4月26日
136	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】N I S Cからの情報提供「T 5 5 2」の送付について	2021年4月26日
135	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】緊急事態宣言等を受けた基本的対処方針の着実な実施のお願い」の周知依頼	2021年4月26日
134	全員	緊急事態宣言への対応について	2021年4月26日
133	全役職者	リモート会議アプリ用 J A H I S ロゴ背景画像をご利用下さい	2021年4月23日
132	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】「第42回第2種ME技術実力検定試験」のお知らせ	2021年4月22日
131	会員連絡窓口	【お願い】会員各社 教育窓口ご担当者のご登録・変更について	2021年4月26日
130	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】N I S Cからの情報提供「T 5 5 1」の送付について	2021年4月22日
129	全員	再) J A H I S オンラインセミナー「セキュリティ関連セミナー」のご案内	2021年4月26日
128	全員	再) 2021年度 J A H I S 教育コース開催のご案内	2021年4月26日
127	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】まん延防止等重点措置の実施を踏まえた基本的対処方針の着実な実施のお願い」の周知依頼	2021年4月21日
126	全員	【お知らせ】日本医療情報学会（J A M I）から医療情報技師能力検定試験の周知について（依頼）	2021年4月21日
125	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】第31回日本医学会総会展示説明会のご案内	2021年4月21日
124	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】N I S Cからの情報提供「T 5 5 0」の送付について	2021年4月15日
123	全員	再) J A H I S オンラインセミナー「セキュリティ関連セミナー」のご案内	2021年4月19日
122	全員	再) 2021年度 J A H I S 教育コース開催のご案内	2021年4月19日
121	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】N I S C重要インフラニュースレター第283号	2021年4月13日
120	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】消費税インボイス制度に関する再周知につきまして」の周知依頼	2021年4月13日
119	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】3都府県におけるまん延防止等重点措置の実施を踏まえた基本的対処方針の着実な実施のお願い」の周知依頼	2021年4月12日
118	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】新型コロナウイルス変異株流行国・地域への新たな指定について」の周知依頼	2021年4月8日
117	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】厚労省より「【周知依頼】まん延防止等重点措置の実施に伴う周知依頼」の周知依頼について	2021年4月7日
116	医療システム部会、会員連絡窓口、全役職者	【リマインド 4/30まで】[アンケート調査／ご協力をお願い] 厚生労働省科学研究 研究班（研究代表者：大阪大学大学院医学系研究科 松村教授）「画像診断レポート・病理診断レポート見落とし防止対策システムの実現状況についてのアンケート」について	2021年4月7日
115	会員連絡窓口、全役職者	【お知らせ】医療・創薬データサイエンスコンソーシアムからの依頼について	2021年4月6日

通知 番号	宛先対象	タイトル	発行日
114	会員連絡窓口、 全役職者	医療安全情報等の共有（2021年No. 3）について	2021年4月5日
113	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「2022年度卒業・修了予定者等の就職・採用活動に関する要請について」の周知依頼	2021年4月5日
112	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】中小企業庁から「知的財産取引の適正化について」の周知依頼	2021年4月5日
111	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】中小企業庁から「下請代金の支払手段について」の送付	2021年4月5日
110	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】まん延防止等重点措置の実施を踏まえた基本的対処方針の着実な実施のお願い」の周知依頼	2021年4月5日
108	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供「T548」の送付について	2021年4月1日
107	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】厚労省より「（参考）医療機関等向け情報セキュリティ研修教材 等」の情報共有について	2021年4月1日
106	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会期間中の物流に係るご協力をお願い」の周知依頼	2021年3月31日
105	全員	JAHISオンラインセミナー「セキュリティ関連セミナー」のご案内	2021年4月1日
104	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】厚労省より「【周知依頼】新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金についての周知に関する依頼」の周知依頼について	2021年3月30日
103	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】新型コロナウイルス変異株流行国・地域への新たな指定について」の周知依頼	2021年3月30日
102	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】厚労省より「（周知依頼）飲食の場面及び職場におけるコロナ感染症対策のお知らせ」の周知依頼について	2021年3月30日
101	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】緊急事態が終了後の飲食、職場の場面における感染予防対策について」の周知依頼	2021年3月30日
100	全員	2021年度JAHIS教育コース開催のご案内	2021年4月1日
99	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第282号	2021年3月23日
98	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】緊急事態解除後の1都3県における催物の開催制限、施設の使用制限等に係る留意事項について」の周知依頼	2021年3月22日
97	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】緊急事態宣言の終了を踏まえた基本的対処方針の着実な実施のお願い」の周知依頼	2021年3月22日
96	全員	緊急事態宣言解除への対応について	2021年3月22日
95	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供「T546」の送付について	2021年3月15日
94	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供「T545」の送付について	2021年3月10日
93	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】高濃度PCB廃棄物の発見事例の提供について」の周知依頼	2021年3月10日
92	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第281号	2021年3月9日
91	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供「T544-2」の送付について	2021年3月9日
90	会員連絡窓口	（再）「国際モダンホスピタルショウ2021」へのご協力をお願い	2021年3月15日
89	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】緊急事態宣言の延長等に伴う特定都道府県における催物の開催制限、施設の使用制限等に係る留意事項等について」の周知依頼	2021年3月8日
88	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】東日本大震災十周年追悼式の当日における弔意表明について」の周知依頼	2021年3月8日
87	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】経産省から「【周知依頼】緊急事態宣言解除後の水際対策措置（ビジネストラック・レジデンストラックの一時停止継続等）について」の周知依頼	2021年3月8日
86	会員連絡窓口、 全役職者	【お知らせ】NISCからの情報提供「T544」の送付について	2021年3月4日

会員紹介

会誌第67号（2021年4月発行）での会員紹介以降に、本年8月末日までに7社の新しい会員をお迎えしました。入会された会社の業務概要やJAHISへの参加目的、活動する上でJAHISに望むことなどについて自己紹介をしていただきます。このコーナーへ寄稿をいただいた会員の原稿を掲載します。

紹介項目

- ◆ 会社名
- ◆ 郵便番号、所在地
- ◆ 電話番号
- ◆ ホームページURL
- ◆ 会員連絡窓口の所属、役職、氏名
- ◆ 会社紹介

株式会社プラスメディ (plus medi corp)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-5-11 神保町センタービル6階

TEL : 03-6272-8251

<https://plus-medi-corp.com/>

開発運用部 インテグレーションG 石川 雅実

株式会社プラスメディは2016年に患者向けスマホアプリ『MyHospital』の開発・運用を目的に創業いたしました。

その後、2019年に済生会中央病院でサービスを開始し、2020年にはより大きなマーケットに向かうため、SMBCグループの一員となり現在に至っています。

弊社のサービスである『MyHospital』は、医療機関で採用されている電子カルテシステムや医事会計システムと連携し、患者様のスマホに「検査結果」や「処方箋情報」、「待ち順情報」、「会計情報」などを反映するスマホアプリです。また、「処方箋FAX送信機能」や「待ち順機能」などと併せて院内滞在時間の短縮や密を回避させることが可能になります。

プラスメディは、常に生活者目線を持ち、志を共にするパートナーと一緒に、新しい価値を生み出すために挑戦し続けます。貴会並びに会員の皆様方には、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

B2NEXT株式会社

〒104-0061 東京都中央区銀座6丁目6番1号 銀座風月堂ビル5階

TEL : 03-5537-7592

<https://b2next.co.jp/>

システム事業部 執行役事業部長 金本 昭彦

.....

弊社は、令和3年1月 社会保障や税等公共分野を中心としたビジネスをターゲットにコンサルタントやシステム開発支援等を行う会社として設立しました。

今年設立されるデジタル庁に象徴されるように、いよいよベースレジストリを中心とした社会システムが構築されて来ることが予想されます。そのためには、官民の連携したパワーが必須です。日本がより強く豊かになるために、JAHISの皆様との活動を通じて社会貢献できれば幸いです。

富士フイルムヘルスケア株式会社

〒107-0052 東京都港区赤坂九丁目7番3号

<https://www.fujifilm.com/fhc/ja>

経営戦略室 部長代理 光城 元博

.....

2021年3月31日の富士フイルム株式会社への事業譲渡により、日立製作所の画像診断関連事業は、「富士フイルムヘルスケア株式会社」として新たにスタートいたしました。

世界中のさまざまな国や地域において健康に対するニーズはますます高まっています。高精度な診断による疾病の早期発見や低侵襲治療を支援する画像診断装置は、今後ますます重要性が高まります。またAIを活用した画像診断支援の開発が各社で進んでいますが、今後、ITやAIはヘルスケアのさまざまな分野で活用され、より付加価値の高い製品・サービスを創り出す源泉になっていきます。

このような背景の下、弊社は富士フイルムグループのヘルスケア領域における中核的存在の一つとして、これまで医療現場で培ってきた画像診断事業と、富士フイルムが持つ幅広い医療事業を相互に補完し強化することで、お客さまに対してワンストップでのトータルソリューションを提供していきます。

貴会では、健診業務トータルサポートシステム「ヘルゼア ネクスト」が関係する、予防・健康分野を中心とした活動を通じて、業界に貢献していきたいと考えております。よろしくお願い申し上げます。

株式会社ストローハット

〒164-0001 東京都中野区中野五丁目46番4号山和ビル4F

TEL：03-5380-2768

<https://www.straw-hat.jp>

代表取締役 鈴木 哲

.....

創業16年目の地域医療介護連携、地域包括ケアシステム等、ヘルスケア分野に特化したシステムインテグレーターです。

主力サービスはヘルスケアSNS「Net4U」というEHRサービスで、地域医療介護連携における情報共有、コミュニケーション基盤として、全国の自治体、医師会を提供しています。

その他、地域包括ケアシステムに関するポータルサイト、特定健診・特定保健指導システム、訪問看護ステーション向け業務支援システム、地域医療連携室向け業務支援システムの設計、開発、運用、保守といったトータルサービスを提供しています。

近年では厚生労働省等の医療介護連携の電子化、標準化に関する事業に参画する機会も増えており、今後は現場のベンダーとしてだけでなく、JAHISの一員として日本の医療介護連携の電子化、標準化の推進に寄与したいと考えております。

株式会社ベストライフ・プロモーション

〒211-0041 神奈川県川崎市中原区下小田中2-12-5 富士通中原ビル5階

TEL：044-754-4100

<http://www.blp.co.jp>

代表取締役社長 今井 良輔

.....

弊社は、ICT+健診代行、保健指導等人的サービスを併せ持つ企業として2007年に設立されました。

「誰もが健康でより長く元気に活躍できる社会」の実現に向け、ICT+人的サービスにより企業、自治体の健康経営、社員や住民の健康向上を支援しています。健診、レセプト、特定保健指導、生活情報等のデータを網羅した健康クラウドを基盤として、「健診BPO」「データヘルス」「保健指導」「PHR」等サービスを提供しています。社会／労働環境等の変化、テクノロジーの進化、価値観の多様化、グローバル化等により新たなイノベーションが加速的に創出されている中、社会課題の解決に向け、テクノロジーとサービスを継続的に融合し貢献したいと考えています。貴会に入会し、政策、業界等の最新動向を共有するとともに、会員の皆様との交流を通して、業界に貢献したいと考えています。貴会ならびに会員の皆様には、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

Abstract合同会社

〒822-0027 福岡県直方市古町17番18-1210号

<https://abst.sakura.ne.jp/>

代表社員 吉岡 由宇

.....

弊社は、特別養護老人ホームでの給食管理や介護記録等の問題を解決するために、2015年に設立されました。主なサービスは、ITリテラシーの低い方にも簡単に使っていただける介護記録システム「Notice」です。現在、全国300を超える施設様でご利用いただいております。

なかなか進まなかった介護業界の情報の電子化も、ここ最近はかなり進んだように思われますが、まだまだ伸び代は大きく、福祉業界の問題解決には福祉情報システム業界の成長が必要だと認識しております。弊社も微力ながらこの業界の発展に貢献できればと考えております。貴会ならびに会員の皆様には、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

就任のご挨拶

事業企画推進室 副室長

こばやし とし お
小林 俊夫



このたび、9月1日付けで事業企画推進室 副室長を拝命致しました小林です。これまで13年間、運営幹事として会員側の立場で活動して参りましたが、これからはJAHIS側の立場で、会員の皆様へご奉仕するお役目を頂くことになりました。5年前に新設された事業企画推進室に吉村さんが初代の室長としてご就任され、数々の事業に携われたことは、運営幹事時代の私の目から拝見させて頂いても、大変な気苦労が多かったと思います。今後半年をかけましてその業務を引き継ぐこととなりますが、その重責に改めまして身が引き締まる思いであります。特にこの約2年間はJAHIS創設以来、未だ経験したことがないCovid-19の影響による対面式会議の中止により、一時的にせよ会議の回数の減少を余儀なくされましたが、その結果としてJAHIS運営の観点から数々の新しい施策を取り入れたパラダイムシフトを経験することとなりました。一方で、JAHISの正式名称には「情報システム」と言う文言を掲げているわけでありますから、その名の通りITを十二分に活用して医療機関だけでなく、今後のJAHIS運営にも活用することができると考えれば、今回のパラダイムシフトは更なる新規事業の企画に対してもプラスになるものと考えております。また、昨年総務会がJAHIS創設以来、初の会員意識調査を実施し、会員の皆様から数々のご意見を頂戴したところですが、事業企画推進室としてもそれに対するAction等を、この秋にまとめられるJAHIS中期計画2025の中で反映できたらと考えております。さて、現在吉村室長がJAHIS内で取り組んでいる、データヘルス集中改革プラン Action1～3については、電子処方箋の取り組みAction2が先行しているものの、今も沢山の議論が山積みされており、実際の運用開始までは、まだまだ色々なハードルを越えなければならない局面が出てくるものと思われます。私としてはこの半年の間で吉村室長から多くの引き継ぎを行うこととなりますが、果たしてどこまで同じ対応ができるか心の中では不安も沢山抱えているという状況です。しかしながら今後はJAHISの会員の皆様と積極的に協業していくという強い意志のもと、そのような不安を一掃しつつ、何事についても前向きに取り組む所存です。

末筆になりますが、事業企画推進室の活動を通じて、本会のますますの発展と、JAHIS 会員の皆様への貢献に努力してまいりますので、何卒、会員の皆様のご支援の程、よろしくお願いいたします。

編集後記

執筆者の皆さまには、ご多用の折、ご寄稿をいただき誠にありがとうございました。お陰様で会誌68号を当初の予定どおり10月に発刊できる目途が立ちました。

新型コロナウイルス感染症はいまだに収まる気配が無く、ワクチン接種は徐々に進んでいるものの、デルタ型（インド型）が猛威を振るっています。連日のように最多感染者数が更新されており、すぐ身近にウイルスが迫ってきているような怖さがありますね。

私自身は、9月初旬に2回目のワクチン接種を行い、少し安心したところですが、ブレークスルー型に感染するリスクもあるそうで、まだまだマスク着用や手洗い励行等の感染防止対策が欠かせない日常が続きそうです。仲間と会話をしながら楽しくお酒を飲める日はいつ戻ってくるのやら……

そのような厳しい状況ではありましたが、東京オリンピックが無事開催され、世界中のアスリートが日本の各会場で素晴らしいパフォーマンスを披露してくれました。アスリートのメンタルヘルスの問題など、新たな課題も取り沙汰された一方、スケートボード女子パークの岡本選手が果敢に攻めてミスをした後に、ライバルである海外選手が胴上げをして励ましたシーンは、競技自体を楽しむスポーツ本来の姿を思い出させてくれたようでとても感動的でした。

8月24日にはパラリンピックも開催され、熱い戦いが繰り広げられています。メダルの色はともかく、アスリートの皆さん一人一人が放つ輝きを目に焼き付けたいものですね。

さて、医療ICTの業界も、大きな変革期を迎えています。政府によりデータヘルス改革が強く進められており、オンライン資格確認が10月から本格稼働し、電子処方箋も工程表が見直され、2023年1月からサービスが開始されようとしています。

JAHISは、国の施策や動向をウォッチし、会員の皆様に鮮度の高いさまざまな情報を発信してまいりたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

AO記

一般社団法人
保健医療福祉情報システム工業会 会誌 第68号

令和3年10月8日 発行

発行人：下山 赤城

編集委員会：編集人 谷口 浩一
委員 岩本 和則
委員 岡 明男
委員 岸本 芳典
委員 木下 善貴
委員 真野 誠
委員 米納 達二
委員 吉野 裕夫

発行：一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会
〒105-0004 東京都港区新橋二丁目5番5号
新橋2丁目MTビル5階
電話 03-3506-8010
FAX 03-3506-8070
URL <https://www.jahis.jp>

制作：株式会社イズアソシエイツ

